2006
子どもゆめ基金®
ガイド



独立行政法人
国立青少年教育振興機構



目次

「子どもゆめ基金」について 1

「子どもゆめ基金」の概要 2

平成18年度　応募・採択状況 4

平成13～17年度　応募・採択状況 6

平成17年度助成活動事例（子どもの体験活動） 7

平成17年度助成活動事例（子どもの読書活動） 27

平成17年度助成活動事例（教材開発・普及活動） 36

普及啓発事業の実例 38

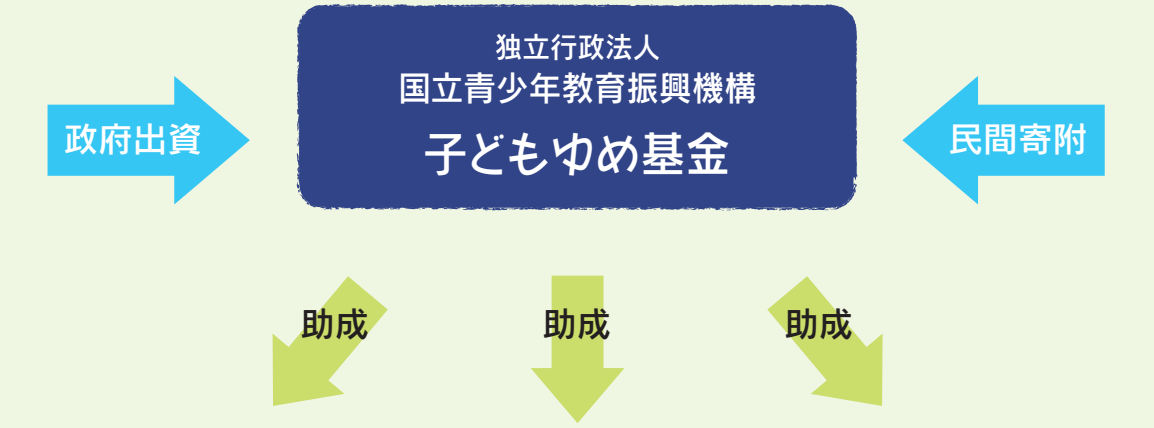
「子どもゆめ基金」への寄附団体 40

「子どもゆめ基金」について

今日、社会全体のモラルの低下、地域社会の教育力の低下、メディア上の有害情報の氾濫など子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しており、自分自身で考え創造する力、他人への思いやりの精神が身についていないと指摘されています。また、子どもたちの社会性を育成する観点から、自然体験活動等の体験活動の充実や、言葉の教育の重視などが提言されております。

このような状況を踏まえて、「子どもゆめ基金」は、超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子どもの未来のために有意義な基金の創設を発意し、同議員連盟が中心となって検討を進めてきたものを受け、平成13年度政府予算において措置された政府からの出資金100億円に加え、民間からの寄附を原資とする基金として創設されました。

この基金は、21世紀を担う夢を持った子どもの健全な育成の一層の推進を図ることを目的に、民間団体が実施する特色ある新たな取り組みや、体験活動等の裾野を広げるような活動を中心に、様々な体験活動や読書活動等への支援を行っています。




子どもの体験活動を支援


子どもの読書活動を支援


子ども向け教材開発・普及活動を支援

「子どもゆめ基金」の概要

助成金の交付

助成対象活動

子どもの体験活動の振興を図る活動への助成

活動例

①子どもを対象とする体験活動
- 自然観察、キャンプなどの自然体験活動
- 清掃活動、高齢者介護体験などの社会奉仕体験活動　など

②子どもの体験活動を支援する活動
- 子どもの体験活動の指導者養成　など



子どもの読書活動の振興を図る活動への助成

活動例

①子どもを対象とする読書活動
- 読書会活動、読み聞かせ会　など

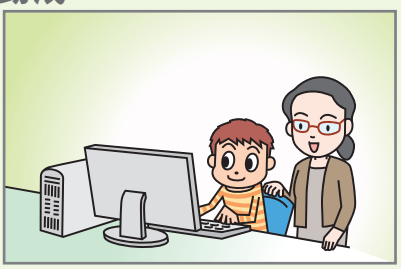
②子どもの読書活動を支援する活動
- 子どもの読書活動の振興を図るフォーラムの開催　など



子ども向けソフト教材を開発・普及する活動への助成

活動例

- 子どもの体験活動や読書活動を支援・補完する、インターネット等で利用可能なデジタル教材を開発し、普及する活動



助成対象団体

民法法人、NPO法人など青少年教育に関する事業を行う民間の団体

普及啓発

子どもの体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発

助成金の額

個別の助成活動に対する助成金の額は、予算の範囲内で、審査委員会の議を経て決定されます。

審査方法

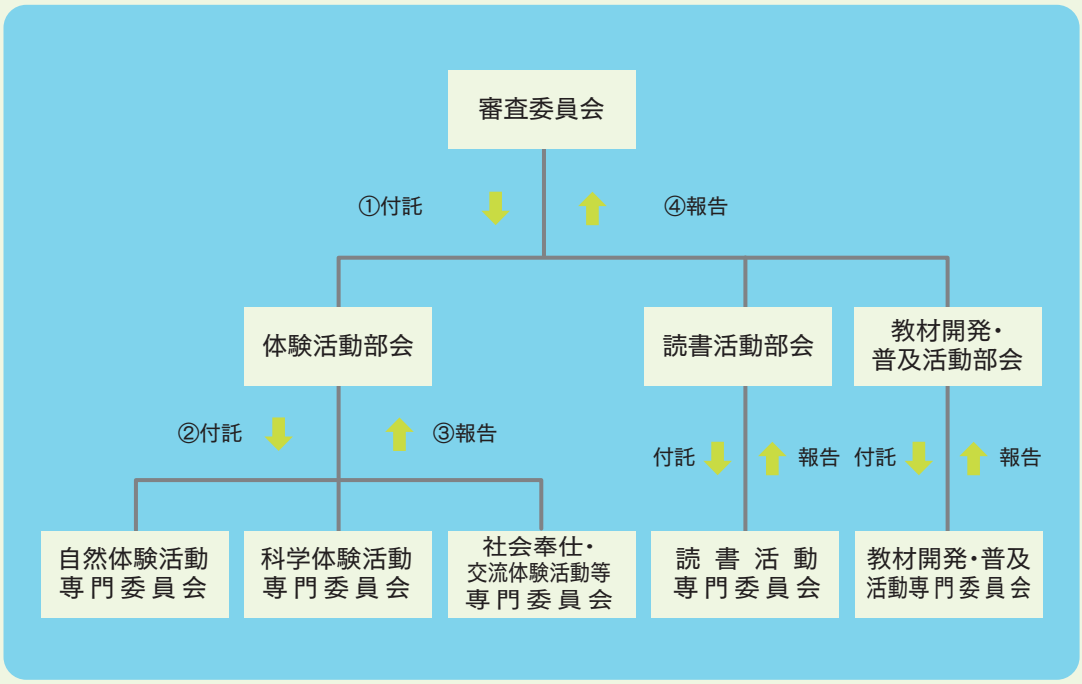
子どもゆめ基金における助成対象活動の決定については、子どもゆめ基金による助成金の交付を適正に行うため、自然体験活動や社会奉仕体験活動等の体験活動、読書活動、教材開発などの分野において実務経験を持ち、かつ青少年教育に高い識見を有する15名の委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」を設置し、そのもとに各分野別の実情及び特性を踏まえて審査を行います。

応募のあった活動については、機構理事長から審査委員会へ助成活動の採択について諮問を行い、これを受けて審査委員会から部会へ、さらに専門委員会へと順次調査審議の付託を行います。

専門委員会の審査は、審査委員会で決定された「子どもゆめ基金助成活動の審査の方法等について」に則り、各団体から提出のあった助成金計画調書について、各専門委員が専門的見地から評価し、合議により助成対象活動の評定（選定）を行います。

各部会では、各専門委員会での審査結果をもとに、採択すべき助成活動及び助成金の額について審議を行い、この結果を審査委員会に報告します。

これを受けて審査委員会において審議を行い、採択する活動及び助成金額を決定します。



平成18年度　応募・採択状況

活動区分別応募・採択状況

（単位：千円）

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	2,532	2,022	1,214,730
子どもの読書活動	549	427	192,908
教材開発・普及活動	103	28	230,150
合計	3,184	2,477	1,637,788

子どもの体験活動都道府県別応募・採択状況

（単位：千円）

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
北海道	137	108	63,697
青森県	16	14	9,144
岩手県	30	26	11,275
宮城県	24	17	9,950
秋田県	9	8	3,844
山形県	10	7	5,329
福島県	19	16	6,920
茨城県	42	37	21,267
栃木県	31	27	14,498
群馬県	24	15	8,115
埼玉県	64	53	30,159
千葉県	86	70	38,671
東京都	437	333	310,399
神奈川県	123	89	55,723
新潟県	29	27	12,985
富山県	27	22	10,288
石川県	25	22	12,544
福井県	49	39	29,784
山梨県	25	20	14,046
長野県	87	74	66,245
岐阜県	37	29	14,206
静岡県	57	46	25,471
愛知県	61	45	22,762
三重県	32	24	10,745

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
滋賀県	47	42	19,421
京都府	75	60	24,258
大阪府	249	211	84,899
兵庫県	101	79	36,271
奈良県	26	22	9,552
和歌山県	22	14	8,750
鳥取県	16	14	4,835
島根県	13	10	8,742
岡山県	27	25	13,567
広島県	33	23	13,969
山口県	19	17	4,286
徳島県	34	26	14,500
香川県	20	15	9,436
愛媛県	22	16	4,997
高知県	24	19	8,420
福岡県	101	82	40,527
佐賀県	15	12	5,607
長崎県	29	22	19,371
熊本県	70	55	32,864
大分県	15	14	7,722
宮崎県	19	16	6,825
鹿児島県	50	42	17,740
沖縄県	24	18	10,099
合計	2,532	2,022	1,214,730

※応募団体の所在地である都道府県別に集計した件数・金額である。（以下、同じ）

子どもの読書活動都道府県別応募・採択状況

（単位：千円）

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
北海道	19	14	5,177
青森県	4	1	620
岩手県	7	7	3,760
宮城県	4	3	1,966
秋田県	6	6	3,222
山形県	3	3	2,420
福島県	4	3	2,972
茨城県	4	4	1,138
栃木県	7	5	4,113
群馬県	6	6	1,083
埼玉県	18	13	4,183
千葉県	15	14	3,106
東京都	55	40	46,156
神奈川県	15	9	2,820
新潟県	11	11	2,999
富山県	7	5	1,770
石川県	8	5	3,731
福井県	6	4	1,648
山梨県	13	12	2,496
長野県	20	15	5,149
岐阜県	8	8	1,452
静岡県	6	4	1,435
愛知県	13	7	2,418
三重県	9	7	4,352
滋賀県	17	14	5,842
京都府	18	13	4,257
大阪府	55	48	14,348
兵庫県	12	11	5,208
奈良県	9	6	2,183
和歌山県	4	4	982
鳥取県	4	3	2,199
島根県	11	8	2,950
岡山県	7	5	3,389
広島県	5	3	909
山口県	4	4	2,734
徳島県	11	9	2,310
香川県	12	8	3,847
愛媛県	5	3	740
高知県	4	3	1,441
福岡県	25	21	6,217
佐賀県	3	2	573
長崎県	15	6	1,500
熊本県	19	15	9,329
大分県	4	4	1,317
宮崎県	20	17	5,117
鹿児島県	14	11	3,384
沖縄県	3	3	1,946
合　計	549	427	192,908

教材開発・普及活動都道府県別応募・採択状況

（単位：千円）

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
北海道	7	2	14,793
青森県	1	0	0
岩手県	1	0	0
群馬県	2	1	6,934
埼玉県	3	1	9,361
千葉県	7	1	9,844
東京都	34	12	102,629
神奈川県	2	0	0
富山県	2	0	0
石川県	2	2	13,515
福井県	1	0	0
山梨県	1	0	0
長野県	3	1	10,549
岐阜県	4	4	34,941
静岡県	6	1	12,755
愛知県	1	1	6,681
京都府	4	0	0
大阪府	1	1	2,801
兵庫県	3	0	0
奈良県	2	0	0
和歌山県	1	0	0
島根県	1	0	0
岡山県	3	0	0
山口県	1	0	0
香川県	1	1	5,347
高知県	1	0	0
福岡県	2	0	0
熊本県	3	0	0
大分県	2	0	0
宮崎県	1	0	0
合　計	103	28	230,150

平成13～17年度 応募・採択状況

平成13年度　（単位：千円）

活　動　区　分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,724	1,469	971,607
子どもの読書活動	257	207	91,805
教材開発・普及活動	87	30	285,668
合　計	2,068	1,706	1,349,080

平成14年度　（単位：千円）

活　動　区　分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,813	1,590	1,141,906
子どもの読書活動	352	322	129,104
教材開発・普及活動	80	28	278,804
合　計	2,245	1,940	1,549,814

平成15年度　（単位：千円）

活　動　区　分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,910	1,723	1,275,061
子どもの読書活動	356	320	170,860
教材開発・普及活動	94	27	247,493
合　計	2,360	2,070	1,693,414

平成16年度　（単位：千円）

活　動　区　分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,837	1,611	1,319,642
子どもの読書活動	351	317	209,506
教材開発・普及活動	94	23	232,335
合　計	2,282	1,951	1,761,483

平成17年度　（単位：千円）

活　動　区　分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,812	1,690	1,419,241
子どもの読書活動	325	299	227,268
教材開発・普及活動	91	27	259,884
合　計	2,228	2,016	1,906,393

親子農業体験学習塾

実施団体名　特定非営利活動法人セルクル
連　絡　先　〒730-0025　広島県広島市中区東平塚町4番12号
TEL:082-545-0507
E-mail:cercle@m6.dion.ne.jp

活動の概要

日頃の生活の中では、お店でしか食べたことのない手打ちそばを、子どもたちを中心に、親子が自らの手で種から育て、収穫し、そば打ち体験までをすることにより、自然との共生を原点とする農業の楽しさや難しさ、農作物を育てる喜びを体感してもらうことを目的として開催しました。また、人間関係が希薄化する現代社会において、親子が共同作業をすることや、他の参加者、地域の方々など多くの人々とふれあうことにより、人間相互の連帯感を生み出し、人間が協働し、共生することの大切さを実感してもらい、さらに、大人たちにも、子どもたちとのふれあいや話し合いにより、その大切さを改めて認識し、日常生活を見直すきっかけにしてもらうことも目的としています。



9月18日《除草》

活動の内容

地元の営農組合にご協力いただきながら、約15アールの農地を借りて、次の日程によりそばの種まきからそば打ち体験までを、家族単位で行いました。



11月6日《そばの刈取・収穫》

①そばの種まき　［7月24日(日)］
整地しながら、そばの種をまきました。

②除草(そばの花の観察会)　［9月18日(日)］
管理作業として除草を行い、きれいな白いそばの花を観察しました。また、地元の営農組合のご好意によりイモ掘りも体験でき、子ども達は大変喜んでいました。

③そばの刈取･収穫(コンバイン試乗会)　［11月 6日(日)］
主にコンバインによりそばを刈り取り、子どもたちはコンバインに乗せてもらい、収穫を喜びました。

④そば打ち体験　［12月 3日(土)･4日(日)］
道の駅「豊平どんぐり村」のそば道場を会場として、親子でそば打ちを体験しました。

成果と課題

参加者は、非日常の農作業やそば打ちを、親子で共同して体験でき、そばの生育段階では鳥や台風による被害も経験し、自然との共生を原点とする農業の難しさや、農作物を育てる喜びを感じることができ、食生活を含めた日常生活を見直すきっかけにすることができました。また、地元の農家の方にも、都市住民との交流の場を提供することができ、当初の目的を達成することができ、次回につなげられることができました。



12月3日･4日《そば打ち》

団　体　の　概　要

まちづくりを主体とした活動を行っています。具体的には、この親子農業体験学習塾のほか、地元のミュージシャンによる公共空間を利用した水辺の賑いづくり「水辺のコンサート」の運営やその集大成となる「なごみミュージックフェスティバル」の開催、地元の芸術家の発表の場として開催する「なごみアートギャラリー」などがあります。

親子のための自然体験活動サポート事業

実施団体名　野遊びクラブ
連　絡　先　〒064-0820　北海道札幌市中央区大通西27丁目1-7-905
TEL:011-640-1138　FAX:011-640-1136
E-mail:noasobi@g-linknet.co.jp　URL:http://www.g-linknet.co.jp/~noasobi/

活動の概要

札幌市近郊の自然公園、および近隣農村において、環境教育を柱にした通年型の自然体験活動、および農業体験活動を行う。いずれの活動も体験学習法に基づき、参加者親子の交流を図ることにも重点をおいたプログラム運営を行う。「自然公園」「農村」「海」と異なる自然環境の中で、それぞれ良質なプログラムを継続的に提供する活動である。子どもたちの心の成長にとっては、自然体験活動は単なる一過性のものでなく、継続して体験し、体験を積み重ねることが大切であるとの考えから、活動の継続が求められている。

活動の内容

１年間（17年度は年間27回実施）を通じて行う活動はバラエティに富んでおり、異なる自然環境の中で三本の柱を立て、実施している。企画段階では、いずれも北海道の地域性を活かしたプログラムの開発、講師の選定に力を入れている。



思いっきり川遊び

身近な自然の中で体験を行う「親子で野遊びクラブ」（全10回）
アートセラピー（小麦粉粘土で遊んじゃおう！）、道産そば粉でそば打ち体験、きのこ観察＆きのこ汁、サケの遡上観察と思いっきり川遊び、冬の円山登山と尻すべりなど。

畑での農業体験を行う「ちびっこファームクラブ」（全11回）
地元農家のサポートを受け、種苗の植え付け、手入れ、収穫に合わせて活動時期（5月上旬～10月下旬／全8回）を設定。毎回収穫した作物で調理を行い、農園でいただく昼食も参加者にとっては大きな楽しみとなっている。畑がクローズする１１月以降は、３回にわたり収穫した農作物を使った加工体験（かぼちゃ、じゃがいもなどを入れたおかずパン、味噌づくり）を行った。



畑の大豆で味噌作り

積丹の海を舞台にした「マーメイドクラブ」（全6回）
積丹沖で野生のイルカウォッチング、小樽の浜で生き物観察、積丹の海で親子スノーケリング、ビーチクッキング、おたる水族館の裏水槽探検など。



小樽の浜で生き物観察

成果と課題

年間を通してコンスタントに活動を行うことで、身近な自然の中での体験の機会をより多くの親子に提供することができた。特に北海道の冬期間は、家にこもりがちになってしまうため、本団体の活動は貴重な野外体験として、多くの参加者の支持をいただいた。特に17年度は、これまでの4年間の活動のマンネリから脱却するために、北海道の地域性・独自性を意識して、新しいプログラムの開発に取り組んだ1年でもあったが、その点については成果をあげることができた。

目下の課題はスタッフの確保である。毎回の活動の講師は、その都度必要に応じて依頼するので、確保は比較的容易である。ところが本団体の年間活動回数が多いこともあり、運営スタッフ（子どもたちのケアにあたるスタッフ、食事スタッフ）の確保はいつも苦労しているのが現実である。核となる運営スタッフを固めていくことが今後の大きな課題である。

団　体　の　概　要

①親子が共通体験を持ち、語り合い、絆を深める機会とする　②親自身が自然の中で感性を開き、子育てへのゆとりを持つ　③他の親子との関わり合いを通して、親子関係をふりかえる　④身近な自然に触れ、子どもが地域への愛着を持つ。これらを目的に、都市部の親子を対象に環境教育を柱にした自然体験活動、農業体験活動を行っている。

夏休み！飛越交流自然体験活動

実施団体名　あそあそ自然学校
連　絡　先　〒930-0464　富山県中新川郡上市町浅生15番地
TEL:076-472-4410
E-mail:ilovetoyama@yahoo.co.jp　URL:http://www.exe.ne.jp/~npp/asoaso/

活動の概要

(活動の目的)宿泊体験を伴う野外活動・自然体験を行うことにより、生きる力を身に付ける。また、神通川の上流域下流域の子どもたちが交流を深めることで、平成16年に起きた神通川の洪水災害を題材として、自然環境を考える上で重要な広域的な自然の捉え方を学ぶ。また、事前に大学生リーダーを養成し、キャンプで交流することで、ピアサポート的な学びの場とする。
(活動の特色)この活動で行う自然体験は、単なる自然体験ではなく、神通川の上流部である岐阜県飛騨高山地域の小学生と下流部である富山地域の小学生が交流することが特色である。県境を越えた支えあいの気持ちを育むことができる。また、大学生リーダーを養成し事業を一緒に成し遂げることで、大学生の環境教育の機会とする。


川遊び

活動の内容

夏休み期間中に二泊三日で実施した。
岐阜県飛騨高山地域および富山県内を対象に、小学校などにチラシを配布して募集を行った。40名の定員に対し、380名の応募があり子どもたちのニーズや関心が高かった。また、岐阜県教育委員会、富山県教育委員会の後援、そして富山県ＰＴＡ連合会の後援を得ることで事業の広報がスムーズに実施できた。
(プログラム内容)
初日…自然マップづくり、ナイトハイク、環境子どもワークショップ
二日目…工作焼き板づくり(野外学習)、川観察＆四十八滝ウオーキング、テント張り、キャンプファイヤー
三日目…カレーライスづくり、ふりかえり＆わかちあい


カレー炊飯

成果と課題

応募も多数でニーズの高い事業を実施することができており、公益的な役割を担えているという実感がある。また、参加者からも多くの感謝のメールが届いており、参加者の満足度も高いと自負している。
事前には把握できなかったが、ADHDの児童が多数参加しており、手厚いスタッフ体制を敷いていて十分な対応ができた。結果的には、熱心な大学生によるピアサポート的な対応は大きな効果を生み、ADHDの児童が通う小学校の教諭から、キャンプ後の2学期から学校での生活ぶりが落ち着いたと評価を得ている。弊団体のミッションとしてはマイノリティに対するケアをできるだけしていきたいと考えており、利益ベースでの民間では対応が難しい問題を今後も解決していけるような人材育成と団体の体制づくりを行っていきたい。継続は力なり、ということで、行政など地域のいろんなセクターとの連携を深め、子どもたちの経験の場づくりのために、継続的な取組みをしていきたい。


ホウノキのプロペラ


ヒキガエルつかまえた!

団　体　の　概　要

あそあそ自然学校は、農生活空間を遊びと学びの場とする家族型自然環境教育を行っています。子ども、親、そしてスタッフ、かかわる人みんなが遊び学び成長するためのもう1つの学校です。

高校生のための森と海のゼミナール

「自然の中で考える環境問題と生物多様性」

実施団体名　国立大学法人東京大学千葉演習林ゼミナール実行委員会

連　絡　先　〒299-5503　千葉県鴨川市天津770

TEL:04-7094-0621　FAX:04-7094-2321

URL:http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/chiba/indexj.html

活動の概要

森林をはじめとする自然界には様々な生き物が暮らし複雑な生態系をなしている。本活動ではこの自然界の中に身をおき、樹木や植物の調査と海洋生物の観察と生態調査を行う事によって、酸素の供給や保健休養等有形無形の恵みを与えてくれる貴重な森林と海洋について学ぶための活動を実施した。



顕微鏡でプランクトン等海洋生物の観察

活動の内容

平成17年7月26日～28日2泊3日

温暖な房総丘陵の森林全般についての講義と天然林や人工林の様々な森林を見学し、森林の構造調査・解析後、対照流域水文試験地で森林に降った雨の行方の説明を受け、その森林から流れ出る水を太平洋まで追った。次に千葉大学海洋バイオシステム研究センターで海洋についての講義後、顕微鏡を用いてプランクトン等海洋生物の観察を行い、さらに海中にいる生き物等の生態調査を行った。



小湊海岸での海中に生息する生き物観察

3日間にわたって、房総丘陵の森林と荒波の太平洋において森林と海洋の仕組みや役割について学んだ。さらに森林内では古来の炭焼きの体験や野生動物の講義と野外でのニホンジカ等の夜間観察も実施した。



水源涵養機能を果たしている140年生のスギ林の講話

成果と課題

17年度の森と海のゼミナールには1都3県から男性6名、女性8名の参加者であった。初日は台風の影響で水かさが増して、渓流に生息する水生昆虫の観察等一部予定を変更せざるを得なかったが2日目からは予定通り実施できた。

参加者はこれまで森林に全く縁のない都会の高校生で、3日間森林の中で初対面同士寝食を共にすることに大変な不安を抱えての参加のようであった。しかし、初日に行った野外バーベキューで親しくなり終始和やかな雰囲気のもと各プログラムを実施する事ができた。成果としては、100年を超えた森林の果たして来た役割や海中の様々な生き物に接することができたことなどから当初の目的であった、「高校生の理科離れに対して、森林と海洋を理解することによって少しでも自然界に関心を持って頂く」この目的達成が参加者の感想発表などから窺い知ることができた。

今後の課題としては実施期間が2泊3日であったことで、集合から解散まで活動日は実質2日間であるため、目的を達成するために強行スケジュールとなった。また、県外からの参加者も多いことから実施期間と内容について検討したい。

団　体　の　概　要

平成12年より東京大学千葉演習林教職員有志により科学の森ゼミナール実行委員会を結成し、高校生を対象に森林で考える環境と生物多様性のゼミナールを実施した。その他の活動としては地元小学生を対象に緑の教室、一般市民を対象に夏の森林教室等を行っている。

自然の中で学んで・遊びながらいろいろと体験する塾

実施団体名　羽幌町「寺小屋塾」
連　絡　先　TEL:0164-62-5589

活動の概要

小学生を対象に畑作を中心とした農業体験・地引網・鮭の遡上観察・植樹・野外での食事づくり等の自然体験、酪農家の手助けを受けての「手づくりバター作り」、技能士会青年部の支援を受けて「木工教室」を開催。収穫した作物で「豆腐・だんごづくり」や高齢者の方々を招き「もちつき・まゆ玉づくり」を行うなど月１回開催、年間を通して活動している。



畝を切ってじゃがいもの種まき

活動の内容

●農業体験活動

約５アールの畑に「じゃがいも・とうもろこし・かぼちゃ・大豆を栽培。種まき、除草等の作業を経て収穫を喜び合う。

収穫したじゃがいもや、かぼちゃで「だんご」をつくる。大豆での「豆腐づくり」は、固まるまでの行程に目を輝かせる。

酪農家の方々の支援を受けての「バターづくり」を町のイベント会場で行い、町の方々の参加をいただき、作りたてのバターをゆでたてのじゃがいもにつけて食べてもらうと「うまい、うまい」の連発で、寺小屋塾の子どもたちの自慢の活動の一つです。

●自然体験活動

地引網引きは、時期的にそれ程多くの漁はないが、網の中で鱗を光らせて跳ねる魚を手づかみにし、大声を上げて興奮状態。

野外での食事つくりは、父母の支援を受けながら、料理の準備、水加減、火加減など分担しながら作り上げていく手さばきは次第によくなっていく。「習うより慣れろ」の言葉そのものである。

●物づくり体験活動

「親子ふれあい木工教室」は4月に公募した塾生以外の子どもたちにも呼びかけ、毎年150名程の参加です。技能士さん方のプロの支援を受けて製作し、出来映えもよく親子で額の汗をふきながらの満足の1日である。

収穫祭は独居老人の方々を招いての「もちつき、まゆ玉づくり」で、昔の行事を懐かしむお年寄り達が塾生の活動に目を細め、一緒に餅を丸め、まゆ玉つくりを手伝い、ほのぼのとした一時を過ごして貰っています。

１年最後の活動「そば打ち体験」は、町のそば打ち愛好者の皆さんの手助けを受けての活動。おじさん方の話に耳を傾け真剣に作業に



高齢者の方と一緒に餅をつきまゆ玉を飾る



親子で協力して木工製作

取組む姿は、１年間の成長を感じる1こまであります。

成果と課題

開設して10年。参加者40名前後で推移してきたが、最近、低学年の参加が増えてきている。親子での体験の楽しさ、異年齢の集団の中での交流の大切さ等を寺小屋活動を通して理解されてきたこと。また、塾を終えた中高校生がリーダーとして残ってくれること、などが大変嬉しい事であります。登下校の途中、街中で会った時挨拶が返ってくることが多くなり、子どもたちの健全育成の一助を担っていることに満足しています。後継者の発掘が１つの課題でしょう。



力を合わせて地引網を引く

団　体　の　概　要

小学生を対象とした団体であり、4月に公募して62名の塾生で約半数が1～3年生である。じゃがいも等の種まき作業では、畝を切り、肥料をまき、土をかけるなど大奮闘。広々とした砂浜で波に負けそうになりながら地引網を引き、大声を上げながら目を輝かせて、これまた大奮闘の子ども達。どれもが初めての体験。指導者も、父母、時には祖父母も交じって楽しく活動をしています。

自然体験・冒険王国「うみの旅」

実施団体名　いきいき体験共和国
連　絡　先　〒229-2507　千葉県南房総市大井618-2
TEL:0470-46-8600　FAX:0470-46-8612

活動の概要

最近では、「人と人」、「人と自然」が触れ合う機会が減少している。そこで自然豊かな千葉県の南房総を舞台に、異年齢集団での20泊21日にわたる共同生活体験や100キロハイクという困難な課題に挑戦する場面において、日常にない学びの場とすることを目指しました。



100kmハイク！いよいよスタート

活動の内容

お箸作り・名札作り
20泊21日の間使用する自分だけのお箸と名札を作りました。
協定作り
大人に言われるのではなく、生活していく上で必要な約束ごとを自分たちで考え、書き出してみんなの前で宣誓しました。
掃除・洗濯
自分の服や使う部屋は当然自分たちで掃除洗濯します。慣れない子どもたちも最後には自分たちだけで出来るようになりました。
鯨の解体見学
日本でも数少ない捕鯨の許可がでている和田の港で解体見学をしました。その大きさもさることながら、そのなまぐさい臭いに子どもたちは驚いていました。
献立つくりとクッキング
キャンプ中の献立を班毎に作成し分量や値段も考えてから買出し、そして調理まで自分たちで行いました。
海水浴
仁ヶ浦の海で泳いだり、スイカ割りをしたり砂遊びをしたりして海水浴を満喫しました。
シーカヤック
午前中は、浅瀬で乗船からパドリングの練習。午後は、近くの無人島一周のツアーを楽しみました。
シュノーケリング体験
沖ノ島は珊瑚の北限域です。午前は、浅瀬で観察会。午後は、いよいよシュノーケルやフィンをつけて珊瑚を見に行きました。
100キロハイク
最初4日間は、14キロ～18キロを歩き、5日目最後の夜をナイトハイクで40キロ弱あるくという100キロハイク。当初は、みんな不安でいっぱいでしたが1人の脱落者もなく全員歩ききることが出来ました。
クリーン大作戦
100キロハイクの行程で、お世話になったお礼に今まで自分たちが遊んだ海岸のゴミ拾いを行いました。



クジラの解体見学



はじめてのシーカヤック！

さよならパーティー
ついにきてしまった最後の夜、やっとお父さんお母さんに会える嬉しさと、みんなとお別れになってしまう寂しさとで複雑な表情で最後の夜を楽しみました。

成果と課題

長期にわたり共同生活を営むことを通じて、子どもたちは自主性や協調性を大きく育み、また自分に出来るのか不安な困難な課題（100キロハイク）を乗り越えることで自分自身に大きな自信を育むことが出来た。例年リピーターの多い活動だが、来年も参加を希望してもらえるよう努力していきたい。

課題としては、長期の活動なだけに参加できるスタッフが少なく、全日程参加ができる班付（カウンセラー）の確保が重要な課題である。



やっと見えたゴールの旗！

団　体　の　概　要

平成12年5月、千葉県南房総市を活動の場所として、「生きる力」を育む体験活動の推進を目的として設立。夏季を中心に全国の子どもたちを集めてキャンプなどの活動を実施し、青少年の健全育成に努めている。

作っちゃおう・食べちゃおう
～古代人になって、中津干潟でたこつぼ漁に挑戦だ～

実施団体名　特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会
連　絡　先　〒871-0024　大分県中津市中央町2-8-35
TEL:0979-23-5320
E-mail:mizube1999@yahoo.co.jp　URL:http://www.max.hi-ho.ne.jp/y-ashikaga/

活動の概要

大分県中津市沿岸には日本屈指の自然を誇る中津干潟が広がり、沿岸では様々な文化や漁業が栄えてきましたが、時代の移り変わりとともに、「海と人の関係」が希薄になりつつあります。そんな中津干潟で環境保全活動を行ううち、「たこつぼ漁」という郷土色にあふれる漁があることを知りました。子どもたちが地域の海の文化に触れ、漁業を体験し、人々と触れ合うことを通じ、郷土の豊かな文化と自然環境に目を向けるきっかけづくりを目的として「作っちゃおう・食べちゃおう」企画を計画しました。

活動の内容

１回目◇はるか弥生時代、中津沿岸の人々は稲作の合間に土をこねて作った小さなたこつぼを野焼きして、遠浅の海に沈めてイイダコを捕っていたそうです。沿岸から発見されたたこつぼ焼成遺跡を見学、出土したたこつぼを触らせてもらうことから活動を始めました。その手の感触をたよりに、自分たちで陶土をこねてたこつぼ作り。できたたこつぼは家に持ち帰り、２週間乾燥させました。

２回目◇「雲南焼」という野焼きの手法でたこつぼを焼きます。丸太の上にたこつぼを乗せ、ワラで覆った後、こねた赤土で塗り固めると即席登り窯のできあがりです。折角なので、火は「火きり棒」で起こして点火しました。焼き上がりまでの時間は、子ども向け水辺の救命講座やタコの学習会、アウトドアクッキングなどを楽しみました。夕方、窯の火が落ちると小さなたこつぼが焼き上がりました。


タコが入りますように、たこつぼ作り

３回目◇いよいよ待ちに待ったたこつぼ漁です。１週間ほど前より漁師さんが沈めておいてくれたたこつぼを６艘の漁船に乗って引き揚げに行きました。小さなタコが入ったツボが引き揚げられる度、船の中に歓声があふれるひとときでした。下船後は漁師さんが用意してくれた中津の魚と中津の海苔で作るバクダンおにぎり、捕れたてのイイダコの試食交流会を行いました。日頃話をする機会のない漁師さんに子どもたちは様々な質問を投げかけていました。３回を通じ、学芸員、研究者、陶芸家、漁業者のみなさんや、多くの地域の方に支えられた活動になりました。


赤土で即席の窯を作る


たこつぼを引き揚げる

成果と課題

子どもたちが「タコも魚もおいしい」と大喜びで魚介類を食べる姿が印象的でした。それまで子どもたちの認識の中で繋がることがなかった食卓と地域の海が出会った瞬間でした。保護者の方々からも貴重な体験を通じて地域の漁業を知ることができ、その漁業を支える中津の海の豊かさを知ったと好評でした。来た・見た・食った・楽しかった、だけではなく水辺に遊ぶ会らしい活動をと願いながらの活動は、地域の様々な方々の細部にわたるご協力のおかげで、予想以上に広がりと実りある活動になったと思います。

何よりうれしかったのは、後継者不足や高齢化、漁業資源の枯渇など明るい話題のない漁業の中で、漁師のじいちゃんたちがにこにこ笑って「子どもたちがこげん喜んでくれるなら、身体が動く限りなんでもしちゃるからな」と言ってくれたことです。海の保全と子どもたちへの環境学習と新しい漁業、このより良い関係作りが今後の課題です。

団　体　の　概　要

干潟観察会や自然観察会の主催・市民ボランティアによる中津干潟生物の調査研究・海岸清掃と漂着物調査・地域の環境学習のお手伝い・建物のない博物館「水辺に遊ぶ会ＭＵＳＥＵＭ」・海と浜の郷土史の調査と記録・ガタガタ通信の発行などなど、中津の海が大好きな人をたくさん増やすためにエンヤコラの毎日です。

サバイバルキャンプ2005

実施団体名　津南町青少年町民会議 健全育成部会
連　絡　先　〒949-8201　新潟県中魚沼郡津南町大割野
TEL:025-765-5776

活動の概要

自然にふれ親しみ感動を味わい自然を利用した共同生活を行うことにより、野外での活動への理解、豊かな人間関係とたくましさを育むことを目的としている。

子どもたちがたくましく生きる力や自然の恵みを活用する知恵と冒険する勇気、自らの体力に挑戦する精神力を養い、地域のジュニアリーダーとしての資質も育成していきたい。



草笛を吹いてみよう。どうすればなるのかな!?

活動の内容

3泊4日、サバイバルキャンプ第1日目、活動を2班づつの3グループにわけ、ローテーションを組む。カヤック・薪拾い・山菜取りである。カヤックは子どもたちにとって初めての経験となる。水面を自分自身の力でオールをあやつりながらかじをとる。水に対する恐怖感をなくし親しむことを憶えていく。薪拾いは、塩焼きや飯ごう炊飯、キャンプファイヤー用に使う。自らの力で林の中からひきずったり、拾い出してきて、のこぎりやなたを使って割っていく。使う道具に緊張したり、興味を示したりしながら汗っかきで行う。山菜取りは、夕食の食材とりである。山菜博士から食べられる山菜を教えてもらう。おおばこ、桑の葉、もぐさ、山ぶどうの葉やつる、ふき、ミズなどである。探して取り、天ぷらや、ゆでて皮をむき、きんぴらにしたりする。これとみそ汁とごはんである。十分すぎるごちそうとなる。

第2日目、活動を2グループにわけ、魚釣りと山伏山登山を行う。魚釣りは本日の夕食のメニューとなるため、みんな必死で釣る。釣った魚はカッターナイフを使い、腹をさき内蔵を出して塩をまぶす。事前研修で作った竹のクシにさす。塩焼きとなる。多く釣れたときは、ホイル焼、細かくたたいてつみれにし味噌汁の中味にしたりする。子どもたちは真剣である。初めての経験をするのである。それからキャンプファイヤーを行った。

第3日目、小松原湿原へのハイキングである。野外炊飯で朝食をとり、バスで小松原へ出発。そこから木道を約5km登って湿原へと入る。高山植物の名まえを教えてもらったりする。

最終日、朝食後に昼食用のおにぎりをにぎり水筒には冷たい麦茶をつめておく。テントをかたづけ、食堂となっていたタープをたたみ、食器を確認する。班活動の連帯責任で全てのチェックを行う。それからサバイバルウォークと呼ばれる約10km、山伏山から津南駅までを目ざし歩くのである。忍耐力との戦いである。



魚の塩焼き。串を上手にさしてみよう。



自分で釣った魚はどんな味かな!?

成果と課題

４日間の自然体験と共同生活を通して、１日の時間の使い方を考え、今度は何をして置くべきか、今は何をするべきかを学ぶ。与えられた食ではなく、食材を自分で取り、食べられるものへとかえる事を学ぶ。集団行動の中で自分を表現しアピールする事を学ぶ。我慢と協力を覚え、苦しさきびしさに耐えてゆく事を学ぶのです。

このキャンプにボランティアで参加してくれる高校生の成長ぶりにも目を見張るものがある。補佐役となりながら、お兄さんお姉さんを実にじょうずに演じてくれるのである。

両方がうまく成長しあいながら、このキャンプが終了していきます。

このボランティアの確保が最大の課題となります。

団　体　の　概　要

近隣の地域から参加者をつのり青少年の生きる力を育むために講演会や映写会などを実施する。

このサバイバルキャンプにおいては高校生ボランティアをつのり、縦のつながりからの信頼感を目的とし、小学生ジュニアリーダー育成をも行うことをねらいとしている。

この活動での感想文を宿題として提出させ、広報誌「すこやか」に掲載し住民への理解と協力を目指している。

守ろう,遊ぼう,旭の自然

実施団体名　旭っ子応援団
連　絡　先　〒697-0424　島根県浜田市旭町和田1740-5
TEL:0855-45-0198

活動の概要

旭町は、ホタルの里として毎年初夏にはきれいなホタルの乱舞が見られる。しかし、近年その数が減ってきていることが懸念されている。そこで、地域の子どもたちを中心にホタルを増やす取り組みを行うとともに、身近な自然環境を遊びや観察を通しながら学ぶことによって、ふるさとの自然の美しさを体感し、大切にしていく意識を高めることを目標に取り組む。



幼虫の生息状況調査

活動の内容

○つくろうホタル舞う旭

近年の河川改修等により、ホタルが自然繁殖する場所が減少しているという現状がある。また、外敵、河川の増水等様々な環境に対応できるような大きさに成長してから川に放流するほうが成虫になりやすいという目的、さらに、ホタルを飼育することによって川の環境を考えたり、ホタルの生態を知ったりすることができ、ふるさとへの愛着も高まると考えられることから、ホタルを育てて放流する活動に取り組んだ。ホタルの飼育方法については、詳しい人から教えていただき、えさや水温などの水の管理が重要だということを学んだ。

そして、大人と子どもと一緒になってみんなでホタルを飼育する場所を手作りで製作し、ホタルの成虫を採集し、卵を産ませてふ化させた。毎日の観察と水質の管理、えさの補充、できるだけ自然の環境に近づけるための工夫も行いながら幼虫がある程度成長するまで養殖する活動に取り組んだ。

さらに、ホタルを増やしたい川の環境、放流する場所の川の環境等を観察する活動も行い、旭のいろいろなところでホタルが増えてほしいという願いの下で活動することができた。秋には、成長したホタルを地域の大人の人と一緒に放流してホタルの成長を願うことができた。

○旭の川を知ろう

ホタルを飼育したり、ホタルが舞う自然環境を考えたりするときに、川の環境に目を向けなければいけない。旭の中で、ホタルが舞う場所、かつてホタルがたくさんいた場所、ホタルがいない場所を選んで川の水質調査・川底や周囲の環境調査を行った。自然観察の指導者を招いて、水生生物から川の汚れを観察したり、科学的な調査で川の汚れを観察したりした。また、ホタルにとって成長しやすい環境についても説明を受け、川の水だけでなくホタルが舞ったり卵を産んだりするのに適した自然環境についても考えることができた。普段目にしている川をもう一度見直すきっかけにもなったと考えている。



飼育セットでの孵化取り組み



幼虫の放流

成果と課題

子どもたちは、ホタルを通して、自分のふるさとの自然については、関心を持ち、その素晴らしさを考えることができた。

一緒に参加した地域の大人も、ホタルについてはじめて知ったこともあるし、川の環境について関心を持つことができた。

この取り組みを、地域に情報発信しながら、子どもたちと一緒にホタルを増やす取り組みに協力していただく方を増やしていくことが今後の課題である。

団　体　の　概　要

豊かな自然や文化などに触れるいろいろな体験をしてほしいと願っている地域の保護者を中心とした団体である。結成して間もないが、川遊びやキャンプなど様々な体験や自然の中での遊びを通して、ふるさとを大切にする気持ちを育てていく取り組みを計画・実施している。

遊びに行こう０５夏（障害児の星空観察会）

実施団体名　特定非営利活動法人あとからゆっくり
連　絡　先　〒574-0072　大阪府大東市深野3-1-7
TEL:072-806-7333
E-mail:atokuri@m20.alpha-net.ne.jp

活動の概要

これまで障害をもった子どもたちとの外出体験活動を行ってきましたが、活動時間やスタッフ人数などの制約があり、活動内容が同じようなパターン化する傾向にありました。子どもたちはもとより保護者の方達との信頼関係も深まってきたこともあり、思い切って夏休みを利用した「外泊体験」をしてみようということになりました。どうせ泊まるなら夜にできる体験も取り入れたいと考え、「星空観察会」を企画しました。

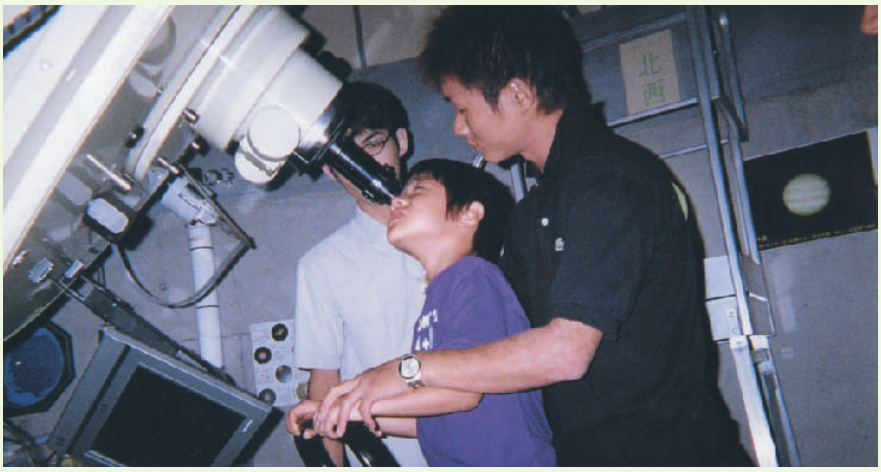
活動の内容

企画にあたってはあまり家族以外との外泊体験が少ない子どもも多く、精神的な不安をなるべく取り除いてやるように配慮することと、介助につくボランティアもこれまでにない長時間の活動になるために集中力を切らさないように事務局の側で十分な準備と配慮を検討しました。



市民プールでボランティアのお兄さんと

実際は初日に大型バスで出発し、昼食休憩の後、「姫路市民プール」に向かいました。プールで思いっきり遊んで、心と体をときほぐしてから宿泊地である「姫路市　星の子館」に向かいました。食事・入浴を済ませてからはじめての大型望遠鏡の前に立ち、天体観測の説明を受けました。順番に月の姿を見させてもらいましたが、おそるおそる望遠鏡をのぞき込みながらうれしそうな顔をする子どもたちの姿は印象的でした。翌日は宿泊地付近の児童館（科学館）などを散策してから帰途につきました。



大型望遠鏡で天体観察

成果と課題

いろいろ不安もありましたが、「宿泊体験」という企画を無事にやりきったというのが何よりの成果です。子ども自身だけでなく保護者にとっても大きな自信に結びついたようで、ぜひこれからも行ってほしいという要望が出ています。しかしながらボランティア集めには非常に苦労しましたし、気持ちの面では気軽に参加できる企画ではなかったかと思います。やむを得ず経験の浅いボランティアも数名参加しており、集団行動の時などは時々子どもたちから目が離れてしまうような場面もあり、事務局の側からかなり声かけもしました。今後行う際には安全確認などが十分できるような体勢で臨む必要があります。



宿泊施設で夕食

団　体　の　概　要

障害者・児の地域生活を支援するための福祉事業所として、ホーム（ガイド）ヘルパーを家庭に派遣したり、生活の場としてのグループホームや交流する場としての地域サロンの運営を主な活動としています。また交流活動を通じたボランティアの育成や教育、啓発活動も積極的に行っています。

科学技術体験活動「放射線を知っていますか?」

実施団体名　久留米大学・九州大学放射線研究者グループ
連　絡　先　〒839-0864　福岡県久留米市百年公園1番1号久留米リサーチパーク研究棟1階井上研究室
TEL:0942-32-4949　FAX:0942-32-4906
E-mail:hiroin@med.kurume-u.ac.jp

活動の概要

この活動は、学校教育の上では高等学校まで待たねばならない「放射線」について、自然の中の放射線あるいは医療における放射線を例として、その性質を学び、また体験することによって、「放射線」の科学的理解を深め、更には、この活動を通して、広く科学技術に興味を持って頂くことを目的としています。



講義の風景

活動の内容

この活動では、中学生を中心に参加者を募っておりますが、高校生あるいは小学生の参加も多く、また、保護者や学校の先生の見学も受け入れています。参加者から、事前アンケートで参加目的を聴き取り、参加者には目的を表明することで明確な意思を持って頂くことと、主催側も、できるだけ参加者の興味に沿った活動ができるように心掛けています。この活動では、午前中に、講義を行い、「放射線とは」、「放射線の性質」、「放射線はどこから出てくるのか」、などの基本的な事項を学んだ後、医療の中で放射線がどのように利用されているかをCTやPETといった最新医療機器を使って撮影した身体の中の写真やビデオをふんだんに使用して説明を行います。その後、昼食を取りますが、この時には、大学の研究者と一緒に食事をして科学の面白さや研究の苦労などの話を聞くことができます。

午後は、実習を行いますが、まずは、身近な食べ物の中の放射線を測定します。椎茸や昆布から放射線が出ていることで参加者は驚きますが、午前中の講義を参考にして解説を加えると理解が進みます。次に、参加者各自が、アクリル板、発泡スチロール、そしてドライアイスを使って、簡易型霧箱を作ります。この簡易型霧箱の中に部屋の空気を濾過した紙を入れ、そこから出てくる放射線を視覚的に観察します。自分たちで作った装置で自然の中の放射線が見えることで、放射線への理解が深まるとともに、その理由を知りたがる探究心が生まれてきます。

活動の最後には、「君は放射線を友達に伝えられるか?」と題して、参加者各自が、放射線のことを知らない友達に放射線のことを伝えるためのまとめを行います。この活動では、終了後に、参加者および保護者にアンケート調査を行い、理解度調査を行うとともに、活動の中で不足だったところ、自宅に帰ってから気付いた質問などを調べています。また、保護者の方には、保護者の目から見た活動の評価をしていただくとともに、子どもたちが継続して、放射線の知識が学べるようなインターネットサイトや本の紹介をしています。



実習(霧箱観察)の風景

成果と課題

この活動の事後アンケートでは、参加者のうち、72%が「大いに満足した」、16%が「満足した」と回答し、一定の評価を得ました。また、保護者へのアンケートでは、すべての子どもたちが家庭で放射線のことを説明したとの回答が寄せられ、活動の効果の広がりが検証されました。また、この活動を広げるために、平成17年度には、本プログラムを英語版にし、インドのタミルナードゥ州で中学・高校生を対象とした活動を行って来ました。

団体の概要

本団体は、放射線教育を中心に、この7年間に1200名以上の子どもたちに科学技術を体験してもらう活動を行ってきました。平成18年度からは、NPO法人化を行い、現在では、これら活動に加えて、地域の公民館活動と協力した科学遊びや科学本を中心とした読み聞かせ活動も行っております。

雪の実験教室－おもしろ実験・観察教室冬期講座

実施団体名　財団法人 金沢子ども科学財団
連　絡　先　〒920-0913　石川県金沢市西町三番町16番地
TEL:076-221-2061　FAX:076-221-2062
E-mail:kodomokagaku-city@kanazawa-city.ed.jp
URL:http://www.kanazawa-city.ed.jp/kodomokagaku/

活動の概要

北陸の冬は降雪量、降雪日ともに多く、子どもたちにとって『雪』はとても身近な存在である。この『雪』を、科学（実験教室）と自然（観察教室）の２つの視点でとらえ体験学習することで、子どもたちの科学的発想や興味関心を養成することを目的とした。

活動の内容

『雪の実験教室－おもしろ実験教室』

小学生３・４年生を対象に、雪の研究で著名な中谷宇吉郎博士とその業績を、神田健三講師（中谷宇吉郎雪の科学館館長）から学んだあと、以下の実験・観察を行った。

１．雪のあかちゃん

「雪はどこでできる？」と問い、「雲の中」と答えを得て、雲を作り、その中で雪の赤ちゃんを作ることに取り組む。十分冷やした「雲箱」のふたを取り、光をあてると、もやもやした雲が観察できる。その中でエアキャップを１粒つぶすと、煙のようなものが漂い、徐々にキラキラ光り、虹色を帯びてくる。これが雪の赤ちゃんで、ダイヤモンドダストとも言われる。

２．雪の結晶

形の見える雪を作る。ドライアイスで冷やし、ペットボトルの中の釣り糸に結晶を成長させる（平松式）。初めて人工雪を作った中谷宇吉郎の方法と対比させ、実験する。結晶の成長を待つ間、雪の基本的な形などについて話し、雪のレプリカを観察させる。ビデオを見て、「雪は天から送られた手紙である」の意味を理解する。

３．氷のペンダント

アルミニウムで作った六花モールドに氷をはさむと、10秒足らずで六花氷のペンダントができる。

４．チンダル像

今度は氷の中に六花の形を作る。氷をOHPで拡大投影し、氷に光をあてると、氷の中に徐々に六花の形ができてくる。光のエネルギーで氷が中からとけてできるチンダル像（アイスフラワー）である。



足跡発見！なんの足跡かな？

『雪の実験教室－おもしろ観察教室』

小学生を対象に、中村晃規氏（金沢大学理学部教務補佐員、里山調査員）を講師とし、普段入ることのない雪が積もった里山を歩き、自然に対する新たな興味を引き起こす事を目的とした。

午前の部：雪の里山探検

スノーシューを履いて雪が積もった里山を歩き、雪上に残った動物のあしあとや糞、食痕などを観察した。

講師は雪の中の動物の観察法として次の二つを解説した。

１．あしあとでの動物の種類の見分け方。

２．歩幅や歩き方、向かう方向等から動物の行動を推理する「アニマルトラッキング法」。

子どもたちには以上の方法で、自分がみつけたあしあとについて、どんな動物がいつ、何のために歩いたのか自由に推理させ、講師はそれに多少の解説を付け加える形で観察会をすすめた。約２時間の観察であったが、キツネ、タヌキ、ウサギ、イタチなどのあしあとを観察することができた。またエノキの落ち葉の下で越冬するオオムラサキの幼虫も観察することができた。

午後の部：昔の雪遊び「竹スキー」づくり

里山のモウソウチクを使い、自分の竹スキーをつくって滑った。

普段使わない道具を使い、難しいところは大人の手を借り、悪戦苦闘しながら作り上げた。作った後はさっそく山の斜面で滑走を楽しんだ。

成果と課題

おもしろ実験教室」では、雪や氷の形の美しさや性質のふしぎを感動的にとらえた児童が多く、科学の魅力を伝えることができたと思う。結晶について、分子のことを含めて児童が理解しやすい教材や説明方法の開発が、今後の課題だと思う。

また、「おもしろ観察教室」においては、雪の里山でのあしあと観察によって、身近な自然の中に野生動物が多種生息することや、雪の中でもいきいきと活動していることを知ることができた。今後も、自然に触れるきっかけづくりを進めていきたいと考えている。



滑る順番待ち、上手く滑れるかな？

団　体　の　概　要

（財）金沢子ども科学財団では、子ども一人ひとりが多様な科学実験を自ら体験できる「おもしろ実験・観察教室」、自由研究や科学の疑問を一緒に考える「なぜなぜディベートサロン」、海や里山のなり立ちや動・植物の調べ方を学ぶ「自然学校」や、「算数・数学チャレンジクラブ」などを地元大学の教官・学生、小・中・高の教諭の協力のもと開催している。

科学コミュニケーション活動2005

実施団体名　特定非営利活動法人 科学と市民社会のコミュニケーション
連　絡　先　〒565-0805　兵庫県宝塚市雲雀丘3-13-21
E-mail:office@scoms.jp　URL:http://scoms.jp/

活動の概要

本活動の目的は、科学実験を見たり科学の話を聞いたりする場を身近に設けることによって、青少年の科学を学ぶ意欲を高め市民の科学に対する関心を高めることである。科学作品の製作や科学実験の体験を通じて科学に取り組む面白さを体得させたり、自作作品についての発表体験を通じて科学をわかりやすく伝える能力を身につけさせたりすることをねらいとしている。


人間電池でオルゴール

活動の内容

1.サイエンス・フェア(青少年のための科学博覧会)

〔宝塚市、宝塚市教育委員会、宝塚市PTA協議会、(特)宝塚NPOセンターの後援。〕

(1)9月10日
[会場]宝塚市教育総合センター、参加者は110人(子ども75人、大人35人)。作品展示と出展者による実験やプレゼンテーション。「ピタゴラスイッチ」「骨と形」「フルーツ電池・人間電池」「ダイアモンドの姿」「カラクリおもちゃ」「変わった温度計」等、12作品を展示。

(2)9月11日
[会場]逆瀬川・アピアホール、参加者は130人(子ども57人、大人73人)。内容は、展示・実験コーナー、サイエンス実験劇場、科学回廊。サイエンス実験劇場の演題は、演題1:チョウと食草、中山忠宣(生命誌研究館奨励研究員)、演題2:クモの糸のミステリー、大崎茂芳(奈良県立医科大学教授)。科学回廊では展示・実験コーナー出展者によるプレゼンテーションが行われた。

2.カフェ・シアンティフィック(科学カフェ)

科学者と市民とが比較的少人数で気軽に話し合う公開フォーラムの場。

(1)テーマ「安心・安全なくらしにつながるごみ焼却」
6月19日
[会場]宝塚市立男女共同参画センター、スピーカーは柴原克己、参加者は大阪大学の留学生・市民を交えて48人。スピーカーがごみ焼却炉設計者の立場から解説。お茶を飲みながらのフリートークでは対話が弾んだ。

(2)テーマ「凧の不思議」
12月11日
[会場]宝塚市勤労市民センター、スピーカーは北浜榮子(大阪大学教授・理学博士)、参加者は18人。凧が揚がるしくみを解説した凧の科学に始まり、競技用凧や軍事用凧の話にまで及んだ。また、世界各地の伝統的な凧やスポーツカイトなどの凧が会場に展示され、参加者は興味深げに手にとって観察した。


豆腐作りに挑戦しました

3.科学実験講座

(1)テーマ「ファミリーで立体凧づくり」
12月11日
[会場]宝塚市勤労市民センター、参加者は18人。凧作り名人の浜田将(生活空間建築研究所所長)を講師に立体凧制作に挑戦。竹ヒゴの骨にポリフィルムを使って凧作り。子どもたちは試行錯誤の末、凧揚げに成功。子どもたちの歓声に包まれ「凧作り&凧揚げ教室」は終了した。

(2)テーマ「ファミリーで台所を科学しよう」
2月26日
[会場]宝塚市西公民館料理室、講師は北浜榮子、参加者は21人。豆腐、温泉卵、ゼリーの固めて作る食材を実験材料にして調理・試食し、固まる条件をみんなで探った。

成果と課題

子どもから大人まで科学に関心が持てるようなテーマや生活に身近なテーマを取り上げたことによって、参加者の科学に対する意識を高揚させることができたのではないかと思う(サイエンス・フェアのアンケート結果から)。また、当法人にとっての具体的な成果は、本活動が評価され、「宝塚市民カレッジ2006」の中で「身のまわりの科学入門コース」として宝塚市から支援を受けて企画・実施する形に発展したことである。今後、さらに他団体とのネットワークを作り、活動を広げていきたいと考えている。

団体の概要

愛称は「サコムス宝塚」。私たちは「科学は市民文化の一つ」と考えます。科学が日常生活の中で市民に身近になる場と機会を提供し、市民が科学と対話するためのお手伝いをします。市民と科学者が一緒に科学について気軽に語り合う「カフェ・シアンティフィック」と身のまわりの「科学実験講座」の企画・実施が主な活動です。

楽しく体験する科学実験クラブ
－親子で楽しむ生物学・化学・地学・物理学実験－

実施団体名　特定非営利活動法人　けいはんな文化学術協会
連　絡　先　〒619-0237　京都府相楽郡精華町光台1-7　けいはんなプラザ・ラボ棟２F
TEL:0774-95-5110　FAX:0774-95-5110
E-mail:kvc@m3.kcn.ne.jp

活動の概要

教育は学校だけが担うべきものでなく、補完的に社会も担うべきであるとの立場から当協会が各方面で行っている教育支援活動の一環として、生物学・化学・地学・物理学の４教科について実験教室を実施した。

指導はボランティアを含む大学教員や企業の研究者があたり、小学校高学年を念頭に、講義と実習、質疑や意見発表を織り交ぜ、2時間30分の時間でありながら子どもの集中力を切らせないように配慮したプログラム構成とした。


生物学：呼気中の二酸化炭素検出実験

活動の内容

関西文化学術研究都市中核ゾーンに位置する交流施設「けいはんなプラザ」ならびに大阪市鶴見区の「大阪市立環境学習センター」を開催場所とした。参加は広報誌などで呼びかけ、小学校２年生から中学校1年生まで計85名、保護者69名が参加した。

生物学では地球上の生き物全てがどのように関りあって生きているかを考え、さらに地球環境を守るためにはその関わりが大切であることを実験を通して理解させるため、酸素・二酸化炭素・水・光の関係を光合成実験で体験させた。化学では人間の営みの中で大切なはたらきをしている酵素について学習させるため、「アミラーゼ」、「カタラーゼ」等を用いて消化・分解を実験で確認させた。さらに酵素入り洗剤を用いて洗浄効果を調べ、日常生活においてもそれが応用されていることを体験させた。地学においては気象現象として雲・霧・夕日・雷・台風について解説し、雲、霧については簡便な装置を用いて発生させることで、「なぜ？」の疑問に自ら解答を出すように促す体験をさせた。また、物理学では電気と磁気という目に見えないものがお互いに影響しあって不思議な働きをしている事を磁石やテスターを用いたり、エナメル線でコイルを作って電流を流すなど実験で確かめさせ、さらに今日話題になっている、「リニアモーターカー」について主催者が準備した模型による実験を通して理解させるとともに、超伝導物質の様々な特性について解説した。

なお、生物学実験においては同じ会場で開催された環境保全活動家のC.W.ニコル氏による講演会「森を育てる」にも参加させ、その


生物学：環境保全活動家C.W.ニコル氏との対話


化学：カタラーゼ反応による酸素発生を泡で確かめる実験

中でニコル氏との対話集会も体験させるとともに、環境保全の問題について考える契機とさせた。

成果と課題

「親子で楽しむ」と副題に掲げたが、参加した保護者が真剣に取り組む姿が印象的であった。また会場への往復のバスの中でも主催者の誘導で会話がはずみ、家庭内における親子の対話が増す契機になったと考えている。実験に要する機器はかねてから子どもだましでなく本物でなければならないと考え、そのように準備しているが、装置等についてはさらに充実させた方がより効果的であると思われる場面がしばしばあった。

なお、生物学実験においては、小学校5年生である参加者の一人のリポートが毎日小学生新聞に子ども特派員という位置づけで掲載された。


物理学：リニアモーターカーの模型による実験

団　体　の　概　要

関西文化学術研究都市の中核施設であるけいはんなプラザを拠点として教育支援・技術移転・環境保全・社会福祉・自主研究・国際交流の６つを柱として活動している特定非営利活動法人。平成15年度、16年度には文部科学省科学技術振興調整費事業「サイエンス・メディエーター制度の推進」調査研究プログラムを担い、平成17年3月に同上課題で政策提言を行った。

科学で遊ぼう！

実施団体名　ドラちゃんのポケットの会
連　絡　先　〒771-4195　徳島県名東郡佐那河内村役場総務企画課　事務局
TEL:088-679-2113

活動の概要

近年、子どもの理科離れが懸念されています。そこで、遊びながら科学実験を体験することで、科学を身近に感じ、子どもたちに科学へ興味を持ってもらえる活動を目指しました。また、手軽に手にはいるような用具を選んで実験をすることで、今後、自主的に子どもたちが取り組んでくれればと考えています。

活動の内容

平成17年9月24日
13時から16時30分
活動プログラム：
実験1 静電気で遊ぼう
（電気くらげ等）
実験2 サイエンス風おやつづくり
（電気ケーキ、色変わりハーブティー）
実験3 いろんなシャボン玉を作ろう
（大小のシャボン玉等）

企画段階では、とにかく身近で親しみやすい教材を用意しました。また、些細な工夫で、失敗を成功に替えられるような実験内容を用意しました。とにかく子どもたちはワクワク、ドキドキ、そして楽しいことが大好きなので遊び半分、学び半分の実験を考えました。

実施の際には、計画・実験のマニュアルにはとらわれず、子どもたちの意見や発想を大切にし、子どもたちが自ら思いついた実験にも取り組みました。指導者からの説明も、実験前だけにし、後は子どもと会員が触れあいながら、試行錯誤しながら取り組みました。その分失敗することも多かったのですが、それが返って子どもたちに考える機会を与えるよい材料となったようです。

成果と課題

団体としては、自分たちが企画し、実行した計画に子どもたちがたくさん参加してくれ、楽しんでくれたことが、今後本会での活動やその他の活動への励みとなりました。

参加者としては、後日出会った子どもに、「家でもシャボン玉したよ」とか、持ち帰ってもらった電気ケーキを家族に見せ、仕組みを話してくれたとの保護者からの声も聞かれ記憶に残った経験であったのではないかと考えています。

今後の課題は、子ども同士でも気軽にできる実験内容を検討すること、また家庭において、親子で取り組むことのできる実験を企画することにより、科学に対する子どもの自主的な学習意欲の向上とあわせて、家庭における学習の場の提供ができればと考えています。



静電気で遊ぼう！

団　体　の　概　要

子育て中の会員が多いため、日頃は、ポケットの会としての活動よりＰＴＡ活動や、保育所の保護者会の会員としての活動が主です。

ゆめ基金の助成の存在を知り、介助的な活動ではなく、自主的な活動をやってみようということで、有志が集まり、会を立ち上げ、応募しました。

「夢のたまご塾」飛騨アカデミー

実施団体名　「夢のたまご塾」飛騨アカデミー
連　絡　先　〒506-1195　岐阜県飛騨市神岡町東町378　神岡振興事務所2F
TEL:0578-2-4020(平日午前中のみ)　FAX:0578-2-4020
E-mail:hida-academy@sunny.ocn.ne.jp　URL:http://www15.ocn.ne.jp/~hdac04

活動の概要

高校生及び同等の年齢の者(学校に行ってなくても良い)向けに「夢を見つけるきっかけの場を作る」ことを目的に、2004年からセミナーを開始しました。日本だけでなく、世界のそれぞれの分野で一流の講師を招き、先生方の研究成果と生き方について語っていただいております。



初日恒例のバーベキューでの交流会

活動の内容

大学の教養課程の講義を手本として、文系・理系のバランスを考えたカリキュラムを組み、14人の講師の先生方にお出でいただき、全国から42名の高校生が参加しました。講義は午前2講座、午後はフィールドワーク、夜1講座を基本としております。遠藤守信氏・信州大学教授によるナノテクノロジーの講義から始まり、脳神経外科医、ニュートリノ、宇宙物理学、天文学等々の理系科目、翻訳文化論、韓国料理、足と履物の民族学など文系の講義が行われました。

セミナーの中で大切にしている一つはフィールドワークです。フィールドワークは、飛騨の自然観察と東大のスーパーカミオカンデ(小柴昌俊先生がノーベル賞を受賞した施設の後継施設)と東北大学のカムランドの見学が定番で、もう一日をその年のトピックスのフィールドワークにしております。スーパーカミオカンデとカムランドの見学の前には、事前の講義で最新の素粒子物理学の学習をします。

大切にしているもう一つは、講師の方々とのふれ合いです。先生方には可能な限り宿泊をしていただき、受講生と一緒に食事をし、語り合っていただくことです。多くの先生方が宿泊され(90分の講義の為に、2泊する先生もいます)子どもたちと交流をしていただいております。生き生きとした子どもたちの顔が私たちのエネルギー源です。



開校記念講演

成果と課題

セミナーを始めて2年ですが、修了生が多くの感想を残しています。《「最高に楽しい5日間でした。」「人との交流がすごく新鮮でした。」「これからの人生の選択肢が増えました。」「普通に暮らしていては絶対に味わえないことが体験できて、本当によかったです。」「小柴さんの言う夢のたまごが見つかったような気がします。」》

また、2回目から受講生の２割はリピーターです。これは、少しは夢を見つけたり、夢のかけらを見つけた結果と確信しています。修了式では「ボランティアや講師として戻ってきてください。」と呼びかけていますが、今年(2006夏セミナー)は修了生がボランティアとして参加します。

今後の一番の課題は、全国の高校生にいかにこのセミナーについて伝えるかです。現在、直接高校へ資料の送付をし、ホームページでの宣伝など、色々な手段で行っています。しかし、マスコミでの宣伝がどうしても東海地域が中心になってしまい、苦慮しています。



東北大学カムランドの見学

団　体　の　概　要

高校生向けのセミナーを春と夏に開催。夏はアカデミックな講座。春は仕事の現場の方々を中心に開催しています。
その他に、一般向けの公開講座と実行委員の勉強や賛助会員向けにミニ公開講座を年に２～３回開催。

「松江市子ども遊びのフェスティバル」

実施団体名　松江市子ども会育成協議会連合会
連　絡　先　〒690-8540　島根県松江市末次町86　松江市教育委員会生涯学習課内
TEL:0852-55-5286　FAX:0852-55-5543

活動の目的

平成の大合併により平成17年3月30日、松江市と周辺7町村が合併し、人口20万人の新松江市が誕生した。松江市子連は、合併を祝し、新しい子ども会の仲間が一堂に介し、豊かな遊び(体験活動)を通じて交流を深めることを目的とした事業を開催することにした。



フェスティバル全体風景

活動の概要

平成15年12月9日(火)実行委員会を立ち上げ、松江市子連の総力を結集するとともに、市内の各種団体(20団体)へ協力要請、全面的な支援を取り付けた。以降全体実行委員会、担当部会等を重ね着々と準備を進めた。各団体との合同の実行委員会も2回実施し意志の疎通を図った。市子連実行委員と各団体の連絡責任者を取り決め窓口を一体化し、スムーズな共催関係が樹立できた。
(フェスティバル当日も有効に機能した。)

新松江市内の小・中学生全員に学校を通じてチラシ20,000枚配布、又、市内学校、全公民館、公共施設等にポスター100枚を掲示し大々的に参加を呼びかけた。

活動の内容

平成17年10月8日(土)曇り空の中、松江市教育委員会の教育長をはじめご来賓の方々によるテープカットでフェスティバルがにぎやかにオープニングした。総合体育館全館を貸切、併設の多目的グラウンド(北公園)も使用し盛大なフェスティバルとなった。

《総合体育館》

ミニコンサート(たまち保育園・中央小学校・第二中学校)
遊びのコーナー(まつえレクリエーション協会)
体験コーナー(ネーチャーゲームの会・老人クラブ・市子連・ペットボトル協会・松江高専)
見ようコーナー(だいこん座・マジック・市子連ジュニアリーダーズクラブ)
食のコーナー(JAくにびき、NPO法人おやこ劇場、シルバー人材センター)
即売コーナー(共同施設ピノキオ、救護施設泉の園、さくらの家)
献血、献眼、薬物乱用防止活動(松江葵ライオンズクラブ)
ポスターコンテスト
(島根県建築事務所協会)

《北公園》

少年・少女グラウンドゴルフ大会
(途中雨のため1ラウンドで終了)
丸太早切り大会

等が開催され参加者の歓声が、笑顔が渦巻いた。子どもたちは日頃体験できないクラフトや、昔の遊び他で大満足であった。午前10時の開会から午後3時まで途切れることなく大勢の参加者(1,500人)であった。



ネーチャークラフト 木の実を使って作ろう



ペットボトルの中に魚の絵を入れつりぼりコーナー



丸太切りコーナー



アートバルーン風景

団　体　の　概　要

現在21地区312単位子ども会8,576人の会員登録がある。総務部、広報部、研修指導部、事業部、ジュニアリーダー部、の5専門部に分掌され、それぞれ部長(副会長)の指揮の元鋭意活動中である。松江市子連は、自然体験、奉仕体験(ボランティア)等の実践団体として幅広く活動、又松江市教育委員会、市内の他団体との協調にも配意した活動を展開している。

サマーアドベンチャー2005
～新佐伯市縦断100km～

実施団体名　子どもの体験サポートサークル
連　絡　先　〒879-3301　大分県佐伯市宇目大字小野市5250-2
TEL:090-5487-9734

活動の概要

異年齢の子どもたち（小５～中3）が高校生をリーダーとして、合併により九州一の広さとなった新佐伯市を共同宿泊しながら、徒歩で縦断するという体験活動である。1日あたり約15kmを歩き、その土地の自然・食・文化・人にふれさせることで、子どもたちに協調性・忍耐力・想像力・判断力・思いやりの心等を育むことを目的としたプロジェクトである。

本活動の特色

①「歩く」ということに焦点をしぼった活動

目的地と制限時刻のみを設定し、グループで移動するということ以外は特別にプログラムを組まず、子どもたちにゆとりを保証した。7泊8日の連続性、スタートからゴールまでを完歩すれば100km達成するという点にねらいをしぼった。

②子どもの主体性を大切にした活動

「歩く」ことを前提としているが、グループ内の健康状態等に応じ、公共交通機関を利用したりしてもよく、また、移動途中に川で泳いだりするなどグループで話し合い、ルートを決定できるようにした。宿泊地（目的地）到着後の活動も、グループごとに自由とした。

③「地産地消」の食事

毎日の夕食は、その地域の食材を現地で調達し、スタッフが調理した。メニューに応じて、調理が子どもたちの活動となった日もある。昼食については、一日の活動費800円（子ども一人）から、子どもたちが移動中に自由に取った。

活動の内容

◎事前研修会　7月3日（日）

参加者及びその保護者、高校生リーダー、スタッフの顔合わせ。事業概要の説明と参加者の紹介。グループの発表（アイスブレイキング）及び第1回グループ会議（連絡など）。

◎本研修

7月24日（日）移動途中に海水浴！
7月25（月）～29（金）移動途中に川遊び
7月29日（金）この日だけは、早朝ウォーク。にぎりめしと蓮光寺の湧水（名水）を持ち、朝6時に木浦小を出発（普段は８時頃出発）。峠を越えて藤河内へ。スタッフによる「峠の茶屋」は大好評。フルーツやドリンクの差し入れは、いつもより豪華。どのグループも予定より早く目的地に着き、お昼はキャンプ場にて。昼食後は、沢歩きや川遊び、水源地への探検などの活動を楽しむ。夜は、鉄板焼き＆網焼きパーティー。
7月30日（土）あいにくの雨。移動距離は短く、天気の頃合いを見計らって移動。「湯～とぴあ」でお風呂に入り、グループごとに夜の出し物の話し合いや練習。夕方～夜にかけては雨もあがり、「ファイナルステージ」と銘打ったキャンプファイヤー＆夕食会を楽しむ。最後の夜ということで、どのグループも名残惜しそうに語らう姿があった。
7月31日（日）いよいよ最終日。朝から雨。ゴールの「うめりあ」では、我が子との一週間ぶりの再会を今か今かと待ちわびる保護者の方々の姿が予定時刻の一時間も前からあった。その保護者の方のカをかりて解散式の準備。４つのグループのゴールシーンは感動的。「ゴールしたいが、ゴールすると仲間との別れが…」という子どもたちの揺れる心が見て取れる。ゴールテープの前で立ち止まり、グループのメンバーの顔をぐるっと見回し、何とも言えぬ表情で息を合わせて一緒にゴール。その場に偶然居合わせた見知らぬ人々も集まってきた。活動の概要を説明すると一緒に声援をおくってくれた。まさに感動的なファイナルとなった。

◎事後研修会（「歩こうフォーラム」）

8月28日（日）約１ヶ月ぶりの再会。取材をうけ、放映されたケーブルテレビの視聴とスタッフの手作りの記録DVDの視聴を行った。続いて、「100km歩いて変わったこと」等テーマを決めて、グループディスカッションを行った。保護者の立場、子どもの立場で盛んな意見交流がもてた。



オリジナルソングもできました。毎朝みんなで歌い、気持ちを高めました。

成果と課題

私たちサークルにとっての成果は、第１に日頃の学校現場における教授法や子ども理解、学級運営の参考となる「生きた研修の場」（構成員は全て教職員ということから）となったことである。また、地域の学校に勤務する教師として、この活動を通して地域の自然・食・文化のよさに直に触れ、より深く知ることができたことは何物にも代えられない財産となった。

参加者にとっての成果としては、事後研修の場でも子どもたちは語ってくれたが、「やればできる」という自信を持つことができたようだ。また、今後、自分が高校生になったらリーダーとしてこの活動に携わりたいという夢を持った子もいるようである。

課題としては、これほどの大きなプログラムを５名のメンバーで行うのは、とても大変であるということ。つまりは、新規メンバーの必要性が浮き彫りになった点である。サポーター（ボランティア）という形でスタッフとなり参加してくれた教員仲間と、もっと大いに語らい、ぜひメンバーとして一緒に活動をしてもらえたらと考えている。

団　体　の　概　要

H14～H16年度に行われた、大分県教育委員会主催の『大分っ子「社会力」パワーアップ事業』に一般サポーター（ボランティア）として参加した教職員の有志によって結成されたサークルである。現在は、夏休みに7泊8日の移動型宿泊体験活動（サマーアドベンチャー）を行うことを主たる活動としているが、今後、地域の子どもたちに学校現場では経験させることが難しくなった体験活動を色々と提供できたらと考えている。

ふれあい『ものづくり・自然体験活動』

実施団体名　東陽ふれあいネット
連　絡　先　〒595-0024　大阪府泉大津市池浦町4-4-1　東陽中学校内
TEL:0725-33-5461　FAX:0725-31-3560

活動の概要

社会・経済構造の変容に伴う地場産業の国外移転・廃業により、工場跡地への高層住宅をはじめとした宅地開発と人口流入が著しい泉大津市では地域コミュニティの再構築が大きな課題となっています。

そこで、旧来からの住民・新しい住民がともに集える「子どもを中心に据えた活動」を年間を通じて実施することによって、地域コミュニティ作りを行ってきました。

活動の内容

◎ 東陽ふれあいフェスタin2005

毎年5月の第二日曜日の開催とし、平成17年度は第4回目を迎えました。

開催に当たっては、計画段階より中学生代表として生徒会役員が参画し、ネット実行委員とともにその年の催しの内容を協議・検討します。今回は、もの作りとしての「七宝焼き」・舞台発表での「PTA・OBバンド」の出演など、単なる「模擬店」ではなく、お互いが声を交わす『ふれあいの場』作りを工夫し、2000名の参加者を得る盛況さでした。

また、「準備から後片付けまで」を合い言葉に一般公募でスタッフとなった中学生が主体となって活躍し、幼児や小学生、地域住民に「中学生って、頼もしいな」と言わせる活動を行いました。

◎ ふれあい夏空観望会

大阪の中心部と関西空港の中間点に位置する泉大津市。年々、田畑や空き地が無くなり子どもたちが自然に触れる機会も無くなっています。

少しでも残っている都会での『自然』に触れながらお互いが知り合いになれたら、と夏休みの一夜に企画しました。しかし、当日は残念ながら曇天で、肝心の星を見ることはできず、積極的に協力してくれた中学生指導者ボランティア（望遠鏡の操作担当。事前講習会を受けています）にも気の毒でしたが、なんとユニックから吊り下げた「簡易プラネタリウム」が大活躍、400名もの参加者がありました。

追記：リベンジ「火星再接近観望会」を後日開催、中学生の面目を保ちました。

◎ ふれあいボランティア面白歴史教室

紀貫之の「土佐日記」に『おづのみなと』と出てくる泉大津。しかし、長く泉大津に住んでいる人でも「住んでいる街」のことを知らないことが多く、幼児からお年寄りまで約70名の参加がありました。

手に手にビニール袋を持ってゴミを拾いながら全行程13kmの「史跡巡り」という催しです。保護者と一緒に参加した幼児も、小学生高学年・中学生のお兄ちゃん・お姉ちゃんに助けてもらったり、手を引いてもらったりと大はしゃぎ。昼食はフェリーの船上で楽しみました。

◎ ふれあいものづくり面白科学教室

冬休みの一日を返上して中学生のボランティアが作ってくれた「部品」を使って、親子で「グライダー作り」に取り組みました。お父さん・お母さんが作り上げたグライダーに得意げに色つけ・絵付けをする幼児。出来上がったグライダーを調節してもらって、飛んで行くグライダーに目を輝かす幼児。参加者は200名を超え、歓声が体育館いっぱいに響き渡りました。

また、重度の障害をもつ児童の介助・支援に中学生が活躍してくれました。



ふれあいボランティア面白歴史教室

成果と課題

年間を通じて4回の「子どもを中心に据えた活動」を合い言葉に活動を行って、「大人（親）が知り合いになる」ことの大切さを痛切に感じました。一緒に作業しながら、「お先に」とか「終わったら回して下さい」などの言葉が大人同士で出来ていない場面を多く見かけました。

しかし、各行事の後半には互いにうち解けあって話が弾んでいる姿、子ども達の「また、やってや！」という言葉が「やって良かった。また頑張ろう」という元気を与えてくれました。また、今年から障害を持つ子どもたちの参加を得ることができ、保護者からも大変喜ばれました。

しかし、各行事を行うに当たって準備の簡素化（事務局の）を図りつつ効果を上げる工夫を続けていくことが、取り組みを長続きさせるものであると検討を続けています。



曇天で、ユニックから吊した「簡易プラネタリウム」が大活躍

団　体　の　概　要

東陽ふれあいネット（東陽中学校区地域教育協議会）は、「子どもを中心に据えた活動」とともに、保護者への子育て支援や地域の子どもとして育って欲しいと月1回の「ふれあいあいさつ運動」などの活動も行っています。

子供達の陶芸でまちづくり！
―焼けた土から文化を創る―

実施団体名　阪神・淡路大震災まち支援グループ まち･コミュニケーション

連　絡　先　〒653-0014　兵庫県神戸市長田区御蔵通５－５
TEL:078-578-1100　FAX:078-576-7961
E-mail:m-comi@bj.wakwak.com　URL:http://park15.wakwak.com/~m-comi/

活動の概要

当団体では、「子共達の陶芸でまちづくり！ー焼けた土から文化を創るー」に取り組みました。私たちが活動する、神戸市長田区御蔵通5･6丁目地区は、1995年に発生した、阪神･淡路大震災で8割全焼という大きな被害を受けました。そのため、震災前と比べて人口は3分の2になり、住民の半分は震災後に当地区に引っ越して来た人たちです。震災がきっかけで、新しい町に変わりました。



まちの説明

活動の内容

今回のプロジェクトでは、地域の子どもたちに、この地域が震災でどのような被害を受けたのか、その後どのように町が変わってきたのかを知ってほしい。そして、子どもたちにも阪神･淡路大震災で大きな被害を受けた町の一員として、震災での教訓を学んでほしいという思いを持って、活動しました。タイトルにある「焼けた土」というのは、当地区から取れる土。阪神･淡路大震災の大火で焼けた土のことです。

町の会長さんに、阪神･淡路大震災でどんな被害を受けたのか、話をしてもらいました。突然大きな揺れに見舞われ、最初は何が起こったのかわからなかったこと。やっとの思いで家を出ると、２階建ての１階部分がなくなるなど、周りの家のほとんどがつぶれ、信じられないような別世界が広がっていて、呆然としたこと。その後、数時間したら火が回ってきて、町のほとんどを焼いてしまったこと。日頃は頼りになる消防士さんだが、あちこちの町で同時に被害が起きると、自分のところに真っ先に来てくれるわけではなく、地域の住民同士で助け合わなければ、自分たちの命を守れないこと。子どもたちは、今自分が暮らしている場所で昔起こった出来事に、驚いていました。

また、地域のお年寄りからは、かつての路地の生活や、お地蔵さんについて話をしてもらいました。今ほど道が広くなく、近所の人の話し声やおかずの香り、どんなテレビを見ているのかも、はっきりわかり、同じ路地に暮らす人たちは、みんなが家族のような、にぎやかな生活をしていたそうです。お地蔵さんも、今は2ヶ所しか近くにはありませんが、昔は7～8ヶ所



看板作り

あり、地蔵盆の時は、お供えを配るのが大変だったが、今は少なくて寂しいという話を、聞かせてくださいました。

これらの話をもとに、案内板とオブジェを陶芸で作り、まちに飾りました。案内板とオブジェを作ることで、自分が役に立てることがうれしく、このプロジェクトが予想外にも、この町のために自分たちに何ができるのか、考えるきっかけになったようです。また、ただ作るだけではなく、地域の人が見る場所に掲示することが、何よりやりがいにつながったようです。今回のプロジェクトでは、地域の大人と子どもをより親密な関係にする役割も果たせたように考えています。今後も、子どもたちがまちで活躍する場を提供できればと思っています。



陶芸作品作り

団　体　の　概　要

阪神･淡路大震災で大きな被害を受けた、神戸市長田区御蔵通５･６丁目のまちづくりを、震災後から継続的に行っています。町づくり協議会や自治会の支援を中心に、地域内での震災の写真展や、地域カルタ作り、また地域住民とボランティアによる、築130年の古民家を移築して地域の自治会館を作るプロジェクトなどを行ってきました。

おはなし会

実施団体名　チョコちゃんのおはなし会
連　絡　先　〒136-0072　東京都江東区大島2-10-17-206
TEL:03-3636-0786　FAX:03-3636-0786

活動の概要

子どもたちが物語の世界に親しみ、言葉の楽しさや想像力・集中力・豊かな心を養うこと、本に興味をもつことを目的としておはなし会を開催する。高学年児童は、自分達が出演することで表現力・自発性も養える。

また、おはなし会に講師を招き、会員が子どもたちによりよく伝えるための勉強をする。


おばけジャンケン1

活動の内容

毎月１回（８月除く）、マンション集会室で実施。幼児向けと児童向けのプログラムで構成する。

１．活動例
手遊び…わらべうたで子どもたちと一緒に楽しむ。

手袋人形…手作り人形を使い、詩やことばのリズムの楽しさを伝える。

おはなし…昔話を中心に、子どもたちの顔を見ながら語る（すばなし）。

幼児向けは、短いおはなしで楽しい擬音の入ったものを語る。

絵本…昔話・物語の読み聞かせ。

パネルシアター…わらべうた・歌・ことばあそびを絵を使って伝える。

・季節感を感じられる演目を入れ、手遊びは、子ども同士でも遊べるものを選んでいる。

２．高学年児童の出演
大人と一緒に出演演目を相談し、児童が選ぶ。月２回の練習日を設け、大人と一緒に練習する。夏休みに、大人指導のもと児童が手袋人形・パネルシアターを作る。

３．勉強会
年３回おはなし会に講師を招き、会員が子どもたちによりよく伝えるための勉強をし、その後のおはなし会に生かす。その他、おはなしの勉強会、絵本の読み聞かせ・わらべうた・パネルシアターの講習会に参加し、メンバーそれぞれがスキルアップを心がけている。また、地域の小学校でもおはなし会を行っている。


パネルシアター


おばけジャンケン2

成果と課題

おはなし会に参加することにより、子どもたちが言葉のおもしろさや、おはなしの世界にふれることができた。さらに、継続参加でより深くおはなしを聞くことができ、本の興味もひろがった。また、わらべうたで遊び、子ども同士や親子で相手の呼吸に合わせながら遊べるようになった。テレビ・CDの機械音ではなく、生の声でおはなしを届けているので、語り手と聞き手の心の交流も生まれ、子どもたちの想像力・集中力・豊かな心を育む契機となった。

高学年児童の出演により、聞き手がより興味をもっておはなしを聞き、異年齢の交流ができた。高学年児童の自発性・表現力・豊かな心が育まれ、多種の本に興味がひろがった。

幼児の参加は増加しているが、児童の参加が減少してきた。地域の小学校にお知らせを配布しているが、今後広報活動を工夫していきたい。

団　体　の　概　要

平成５年に発足。４名の会員で地域に向け、月１回おはなし会を開催している。
子どもたちに絵本の読み聞かせとすばなしで物語を届けることを中心に、わらべうた・パネルシアターでおはなし会を構成する。

子どもと共に楽しい読書を！

実施団体名　明徳館こんわ会
連　絡　先　〒010-0862　秋田県秋田市手形田中7-56
TEL:018-835-2708　FAX:018-835-2708

活動の概要

図書館、学校、文庫、児童館などでおはなし会活動が活発に行われている。そのような子どもの読書に関わっている人たちを対象に、その活動をより充実させ、発展させるためのセミナーを実施した。また、おはなしやうた、あそびを楽しむ「おはなしまつり」を開催し、多くの人たちにおはなしの楽しさを実感してもらった。



セミナーで絵本を紹介

活動の内容

おはなしスキルアップセミナー

子どもたちを本の世界へ誘うために必要とされる知識や技法を学ぶセミナーを５回にわたって実施した。

① 紙芝居講座（１回）
～紙芝居　創って　演じる～

おはなし会で最もよく使われる紙芝居について、その特徴、魅力、効果、紙芝居づくりのコツ、演じ方について学んだ。豊富な内容に、実演、実習を加えた楽しい講座であった。

② 本の世界へ誘う（２回）
子どもと読書の幸せな出会い
～読む、語る、紹介する、本の世界で遊ぶ～

子どもたちに読書をすすめるためには、本を紹介するいろいろな手法を身につけて、子どもと本との良い出会いを作っていく必要がある。読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク、アニマシオンについて、それぞれの特徴、留意点、実技法を学んだ。子どもの発達と読書、それに対応した読書をすすめる手法など、子どもの読書についてトータルに学ぶ機会となった。

③ おはなし会の企画構成（２回）
～絵本の楽しみ　語りの魅力～

おはなし会のプログラムをどのように組み立てるかを学んだ。おはなし会で多く使われる絵本の読み聞かせと語りについての実習、おはなし会を盛り上げるためのちょっとした工夫など、実用性の高い講座であった。

おはなしまつり

絵本の読み聞かせ、おはなしをもとにした寸劇、デジタル紙芝居、うた、手品などを楽しむ「おはなしまつり」を開催した。会場には物語をヒントにして作成された押し花絵も飾られ、雰囲気を盛り上げた。おはなしに親しむように工夫された多彩なプログラムに、子どもたちは驚き、感動したようだった。


おはなしまつり

成果と課題

学校、図書館、児童館等で多くのボランティアがおはなし会活動を行っているが、活動がマンネリ化、パターン化しているという声が聞こえている。そんな声をうけて、今回はおはなし会の活性化、子どもと読書を出会わせる多彩な技法の取得を目的としてセミナーを実施した。概ね目的は達成されたのではないかと思う。講師陣に専門家を迎えたことで、子どもの読書について基本的な知識を学ぶことができたのも大きな成果であった。

今後も子どもの読書に関わる人たちが学習し、交流していく機会を継続的に作る必要があると考える。またボランティアの活動意欲を高めていくような講座も必要ではないかと思う。

団　体　の　概　要

秋田市立中央図書館明徳館を後援するとともに、読書を主体とした地域文化の向上に資することを目的として、平成10年に発足。「子どもの読書推進」と「朗読文化の普及・向上」の２つを主要事業として活動している。

あかね台文庫 語り・読み聞かせ活動

実施団体名　あかね台文庫
連　絡　先　〒227-0006　神奈川県横浜市青葉区あかね台1-23-32
TEL:045-984-0011　FAX:045-984-0011

活動の概要

図書館等の公共施設の遠いこの地域で、身近に良質な本に触れられる場を作り、おはなし会を設けて広い分野の本に接し読書の質を高め、幅を広げる。さらに異年齢の子どもたちが集まる事で子ども同士の縦の繋がりを築いていく場を作り、子どもたちの健全な育成に役立つような活動をしている。



読み聞かせ

活動の内容

1年を通じて、第2、4水曜日の2時～5時に自治会館にて文庫を開催し、3時30分～4時はお話し会を行う。

9月28日のプログラム

1. お話し「ヤギとライオン」
2. 絵本　「たろうのおでかけ」
3. 手遊び「カニさんのじゃんけん」
4. 絵本　「ちいさいおうち」

季節、行事、未知の世界、科学物等を考え、子どもたちが興味を持つようなプログラム作りを心がける。夏と冬のお楽しみ会では、子どもたちに発表の楽しみも感じてもらえるよう参加型のプログラムを作っている。

夏のお楽しみ会のプログラム（8月31日）

1. おはなし「ねずみのむこさがし」
2. 大型絵本「とべばった」
3. 詩の朗読「ぼうし・河童と蛙・みみをすます」
4. パネルシアター「だれとだれかとおもったら」
5. パネルシアター「ねこがいっぱい」
6. ペープサート「これはのみのぴこ」
7. お話し「かじやセッポのよめもらい」

プログラムの3.5.6.は子どもたちにしてもらいました。また、普段は出来ない高学年用の長いお話をプログラムの最後に行いました。

毎回、おはなし会の最後には必ず、簡単なブックトークを行い、お話し会で話した本と同じ作者の本やシリーズの本を紹介して貸出を行っています。

プログラムには必ず手遊びを入れ、一緒に楽しみながらわらべ歌などを伝えています。

また、毎回発行しているお話し会のプログラム「Book Book Book」では、スタッフがお勧めの本や新しく入った本を紹介しています。



読み聞かせ

成果と課題

おはなし会での、子どもたちの喰いつくような瞳や、弾けるような笑いに囲まれると、本を楽しみながら色々な経験をし、生きる力や知恵を修得できる上質な本を提供できる環境作りの重要性をひしひしと感じます。

また、本離れ進行中の子どもたちが、何年も通ってきてくれて、絵本から児童書へと読書経験を積んでいく姿はとても頼もしいものです。

くちコミで新しく来てくれる子どもたちに接しながら常連さんの子どもたち共々「水曜は文庫へ行こう」と思ってくれるような魅力ある活動を継続する事、また、その難しさや責任を感じながら、子どもたちとの時間を楽しく有意義なものにし、小さいお子さんたちと来てくれるお母様たちへの読書に対するアプローチをいかにすれば良いのか考えています。



手遊び

団体の概要

地域の中心にある自治会館の一部屋に本棚を設置し、月に2回の文庫を開催。毎回スタッフによるおはなし会を行う。おはなし会前後に本の貸出も行い、それぞれの子どもたちの読書経験が広がるよう後押しをする。年に4回、図書館で本の交換をし、読書環境を整える事に力を注いでいる。

ひらけ　おはなしたまてばこ

実施団体名　おはなしたまてばこ
連　絡　先　〒716-0029　岡山県高梁市向町21　高梁市立高梁中央図書館内
TEL:0866-22-2912　FAX:0866-22-0030

活動の概要

ストーリーテリングや絵本の読み聞かせをとおして、子どもたちと共におはなしや絵本の楽しさを共有するとともに、本に親しんでもらうことを目的に研修会やおはなし会を開催した。また、大型絵本を製作した。


おはなしの間に手あそびで遊ぶ



絵本と詩で講演

活動の内容

「おはなし会がはじまるよ」

高梁中央図書館「小さいこの部屋」にて、ストーリーテリング・絵本の読み聞かせを中心に毎月1回のおはなし会と、年3回（8月「夏休みおはなし会」、12月「クリスマスおはなし会」、3月「春のおはなし会」）おはなし会スペシャルを開催した。

毎月のおはなし会は約1時間で、ストーリーテリングを2～3話、絵本を2～3冊読み聞かせた。おはなし会スペシャルでは、約1時間30分で、手遊びや紙芝居、エプロンシアターや季節にあった折り紙、科学遊びとマジックを取り入れた。

「こんにちは高梁むかしばなし」

地域の昔話を伝えていくことにより昔話の世界を楽しんでもらうとともに、地域や本に関心と親しみを持ってもらうことを目的に、日頃から語っている人を迎えて夏休みの始めにおはなし会を行った。紙芝居、ペープサートなども使って小さい子どもたちにも楽めるようにした。また、小さい子を持つ親や読み聞かせボランティアを対象に、絵本についての研修や「絵本と子育て」をテーマに、地域の幼稚園長による講演を開催した。



ストーリーテリング


科学遊びで作ったペンダントを胸に！！


春の香りと一緒にペンダントを胸に

成果と課題

なじみの参加者以外に多くの親子や小学生の参加を得ることができ、ストーリーテリングや絵本の楽しさを多くの人と共有できた。

大型絵本作りもよい材料を使用することができ、会員同士で作品を作り上げる楽しさや、作品理解を深めることができ、子どもたちもとても喜んでくれた。

地域の昔話を取り上げたことは、「よかった、他の話も知りたい」という声をいただき、今後も続けていきたい。また、次年度は絵本作家を招いて、さらに絵本の楽しさを子どもから大人まで広げていきたい。



大型絵本で会場の参加者と共にぴょーン

団　体　の　概　要

ストーリーテリングや絵本の読み聞かせをとおして、子どもたちと共におはなしや本の楽しさを共有し、本に親しんでもらうことを目的に、図書館で毎月１回講師を招いて勉強会とおはなし会を実施している。また、地域の小学校や幼稚園・保育園などにも出かけておはなし会を行っている。

「子どもの本講座・おはなしと音楽の夕べ」

実施団体名　小林子どもの本の会
連　絡　先　〒886-0004　宮崎県小林市大字細野1582
TEL:0984-23-7003　FAX:0984-23-7003

活動の概要

小林市及び近隣の地域の人々におはなしや本の重要性を認識してもらい、ボランティア活動をする人々の向上の機会とするため「子どもの本の講座」を、家庭での読み聞かせ・おはなしの振興普及を願って「おはなしと音楽の夕べ」を企画しました。

活動の内容

「子どもの本の講座Ⅰ」
―　講師　田中 千代野氏
＜講習会－絵本の読み聞かせ＞
6月3日(金)13時～14時30分
市立図書館
読み聞かせの方法や心構えとともにたくさんの絵本や詩の紹介があり好評でした。

＜大人のためのおはなし会＞
6月3日(金)19時30分～21時
文化会館会議室
大人もおはなしや絵本を楽しみ、学校や家庭ですぐにそれらの本を使ったり、おはなしを語ったという報告がありました。

＜子どものためのおはなし会＞
6月4日(土)10時30分～11時30分
小林市立図書館



子どものためのおはなし会

各学校に案内を配布し、100人近くの子どもたちが集まりました。講師の巧みなおはなしその他に、笑ったり、手遊びを一緒にしたり驚いたり、あっという間の1時間だったようです。

「子どもの本の講座Ⅱ」
―　講師　宇原 郁世氏
＜講演会－楽しいブックトーク＞
8月3日(木)14時～16時
中央公民館
当地では子どもに本を紹介する有効な方法のブックトークが知られていません。たくさんの人にきいてもらい、子どもたちにブックトークを実践して欲しいと学校図書司書で第一人者の宇原郁世氏に講師をお願いしました。
夏休みに行い、先生方と共に学習できるように、教育事務所及び教育委員会の後援をいただき、直接学校の先生方にも呼びかけていただきました。
先生方の参加も多く、この方法のすばらしさが認められ、もっと知りたいという声がありました。

＜おはなしと音楽の夕べ＞
10月28日(金)　19時～21時
小林文化会館小ホール　無料
2001年から始めたこの会は無料ということ、対象を子どもから大人としているため楽しみに待っている人もいて、200人を超える入場者でした。
2005年度はハープとフルートの演奏を会の始めと終わりに、子どもたちによる詩の朗読やおはなし、休憩をはさんで4人の方のおはなしで構成しました。
子どもを連れた家族や高齢者がハープやフルートの音色と詩やおはなしで心豊かな時間を楽しんだと喜ばれました。



大人のためのおはなし会

成果と課題

学校での本の読み聞かせが急激に広まり、ボランティアの学習が必要になっています。遠方から講師をお願いし、学習できることは小林子どもの本の会及び近隣の方々にとってもおおきな喜びです。幸い市内の学校で読み聞かせネットワークができました。さらに情報交換を密に、講演会で学習したことをどういかしていくか課題です。
「おはなしと音楽の夕べ」が心豊かで楽しい時間となり、家庭でのおはなしや読書へとつながるきっかけづくりとなるよう、一夜の楽しみで終わらせないような工夫ができたらと考えています。

団　体　の　概　要

「小林子どもの本の会」の母体となった「子うさぎ文庫」で、毎週土曜日に絵本の読み聞かせ、本の貸し出し、七夕、クリスマス、雛祭りといった行事を子どもたちと楽しんでいます。その他絵本やおはなしの勉強会をし、ブックスタート、子育て支援センター、小・中学校での読み聞かせのお手伝いを交代で行っています。

ももの会指導者養成講座

実施団体名　ももの会
連　絡　先　〒767-0032　香川県三豊市三野町下高瀬569-2　三豊市三野町図書館内
TEL:0875-73-3121　FAX:0875-73-3120

活動の概要

子どもと本を結ぶ手立てとして、図書館、幼稚園、小学校等でおはなし会を実施している。現在行っているおはなし会に紙芝居は欠かせないものであるが、実技指導を受けたことがなく、自己流で行っている。そこで、紙芝居の先生をお招きし、今後の活動に役立てたいと研修を行った。

また、本やおはなしの世界の楽しさを伝えるために、絵本作家を迎え、読み聞かせ等の講演会も開催した。



右手和子さんの講座

活動の内容

1. 紙芝居って、楽しいな！
（10月27日）
講師：**右手和子（子どもの文化研究所所員・同文化学校講師）**
内容：読み聞かせボランティア・一般を対象に、午前中は紙芝居実演を交えながら、紙芝居の歴史や子どもたちに伝え残す大切さを講演していただいた。

午後からは、参加者に演じてもらい、先生に演じ方（声の出し方、動かし方、抜き方など）の指導をしていただき、指導者研修を行った。

2. 絵本作家による読み聞かせおはなし会（10月29日）
講師：**いわむらかずお（絵本作家）**
内容：「絵本・自然・子ども」をテーマに、自然の素晴らしさを交えながら、自然を舞台にした絵本の世界について講演。

自然の中で見つけた「くるみの殻」や「どんぐり」、また自然の中で生活しているねずみやリスの写真などを参加者に見せながら、絵本に出てくる動物などの話を聞くことができた。



いわむらかずおさんの講演会


いわむらさんと参加者のふれあい

成果と課題

より充実したおはなし会を子どもたちに届けるため、また本やおはなしの世界の楽しさを伝えるために、今回の講座や講演会を開催した。

『紙芝居』の研修を行ったことで、演じ手の台詞の言い方、画面の動かし方・抜き方ひとつで観客と共感できる世界の拡がりが違ってくることを学んだ。これからも多くの子どもたちに、紙芝居の楽しさ・大切さを伝えていきたい。

絵本作家・いわむらかずおさんの講演会には、定員を超えるたくさんの方に参加していただいた。いわむらさんから、山や森にすむ動物たちの話や自然の暮らしの中から生まれた絵本の話を聞くことができ、参加した子どもたちだけでなく、大人も興味深く、目を輝かせながら受講していた光景が印象的だった。また、いわむらさん本人による絵本の読み聞かせは、参加者に作家と絵本を身近に感じることができる良い経験になったことだろう。

今後もボランティアのスキルアップにつながる研修講座や多くの方に本やお話の世界の楽しさを知っていただくための講演会を続けて行いたい。そして、さらに人の輪を広げ、子どもの読書環境を充実させ、子どもと共に楽しみ成長できるよう努めていきたい。

団　体　の　概　要

平成7年3月に発足。毎月2回、図書館で「おはなし会」を実施。また、町内各保育園、幼稚園、小学校での読み聞かせの会も行っている。

その活動を通じて、本やお話の世界の楽しさを伝え、子どもたちの心豊な成長を願っている。

「広げよう！深めよう！私たちの読み聞かせ」

実施団体名　読み聞かせ交流会
連　絡　先　E-mail:matsumoto-famx@ayu.ne.jp

活動の概要

読み聞かせ交流会の活動の柱は、「学習講座」と「講演会」。そして、これらの活動を円滑に進めていくための定期的な会合の開催である。読み聞かせが広がるにつれて、その現場では、子どもたちへの対応や読み方、選書などに戸惑いや悩みが生じてきた。こういったことから、子どもたちに絵本やおはなしの本当の楽しさを味わってもらえるように、私たち読み手が、読み聞かせについての考えや姿勢・技術などについて学んでいく機会を持てるように企画している。

活動の内容

1、読み聞かせ学習連続講座

講師：子育てアドバイザー・秦野市学童保育指導員
大畑　眞由美氏

秦野市のおはなしボランティアの会「おはなしころりん」で、30年近くおはなしに関わり続けている大畑氏の実践講座。4回に渡り、①「聴く」ということ　②手遊び・わらべうた　③絵本について（読み聞かせ・選書）　④絵本について（昔話）　というテーマで学んだ。



大畑　眞由美氏　学習講座



川端 誠氏　講演会

読み聞かせの技術だけでなく、子どもとの関わりや「聴く」ことの大切さなど、母親として私たちが学ぶべきことが多くあった。

2、講演会

講師：絵本作家　川端 誠氏

自作絵本の「開き読み」やそれにまつわる愉快な体験談、スライド上映を交えながら、製作の舞台裏を紹介、と玉手箱のような講演会が実現。しかも、会場がお寺の本堂という一風変わった設定。いつもは読み手の私たちが聞き手になって、笑い、驚き、感心し、そしてちょっぴりホロッとして…心の底から楽しめる2時間を過ごした。

成果と課題

学習講座は、私たち読み手の技術向上を目的としているが、講師としてお願いした大畑氏からは、読み聞かせについてだけではなく、読み手となる私たちが母親であることを踏まえての大切なお話がたくさん聞けたことが、何よりの収穫だったと思う。

また、日頃忙しいばかりで、自分の心のリフレッシュがなかなか出来ない私たちに、川端氏のお話は、とてもよいビタミン剤だったようだ。絵本が出来上がるまでの苦労や工夫、自作への思い入れなども聞いてみて初めて知ることばかりだった。直接お話を聞くことで、より身近に感じられるようになったことは間違いない。

少ない人数で運営しているため、多くの講座・講演会を手がけることは出来ないが、子どもたちへより良いものを届けられるよう、これからも読み聞かせに関わる方々への働きかけを続けて行きたいと思う。

団　体　の　概　要

厚木市内の小・中学校で読み聞かせ活動をしている団体のネットワーク作りと技術向上を目指して活動している。会員8名の小さな団体だが、各小学校からの自主的な参加のため、講座・講演会の企画・運営などに意欲的に取り組んでいる。

「子そだてに絵本を」本を子そだてに生かすために

実施団体名　和歌山みなみ子ども劇場
連　絡　先　〒640-8255　和歌山県和歌山市舟津町4-28　ＳＫＤ第2ビル4Ｆ
TEL:073-424-0358　FAX:073-424-0358

活動の概要

本が子どもたちの成長にとって大切なものであるという意識を大人に持ってもらいたいと願い、絵本についてお話をしてくださる講師の方々を招いて色々な形で勉強会を８回開催しました。大人の意識を深め、子どもが本とふれあう機会を工夫しました。並行して絵本の読み聞かせと工作を子どもと親を対象に、８回行いました。



「木の実のおはなしと玉入れ」スタッフと参加の親子

活動の内容

絵本の勉強会
・2005･6/20(月)10:30～12:00事務局
『好きな絵本を持ち寄って』
・7/31(日)13:30～16:00
中央コミセン
岩城敏之氏講演会『笑って学ぶ現代の子育てのコツ』『世界のおもちゃで遊ぼう』
・9/30(金)10:10～12:00
かいがら文庫
『読みつがれてきた絵本たち』
・10/28(金)10:00～12:00
生協会議室
『ブックトーク』
・11/19(土)13:30～14:30
ルーテル教会
語りの森による『おはなしの会』
・2006･1/20(金)10:30～12:00事務局
『好きな絵本を持ち寄って』
・2/12(月)10:30～11:30
児童女性会館
手作り絵本の会「ねこのひげ」の『影絵でみる絵本』
・3/28(火)13:30～14:30事務局
語りの森による『おはなしの会』

絵本のよみきかせ(おはなしと工作)
・2005･6/27(月)10:30～11:30中央コミセン
『雨の季節の楽しいおはなしと工作』　てるてるぼうず
・7/11(月)10:30～11:30
中央コミセン
『素敵な夏のおはなしと工作』紙の花火
・9/12(月)10:30～11:30
中央コミセン
『お月様やおいしい物のおはなしと工作』ぱくぱく人形
・10/3(月)10:30～11:30
中央コミセン
『木の実のおはなしと玉いれ』
・11/8(火)10:30～11:30
中央コミセン
『冬ごもりのおはなしと工作』木の葉でアート
・ 12/6(火)10:30～11:30



手作り絵本の会「ねこのひげ」の「影絵でみる絵本」



「読みつがれてきた絵本たち」勉強会

中央コミセン
『クリスマスのおはなしと工作』クリスマスのお飾り
・2006･2/14(火)10:30～11:30
中央コミセン
『雪だるまのおはなしと工作』おひなさまの飾り
・ 3/14(火)10:30～11:30
中央コミセン
『おおきくなるってことはと工作』お花畑の貼り絵

成果と課題

年間を通しての工夫した勉強会をもつことができました。絵本を身近に楽しみ、親子で又仲間で、楽しさを共有できる大きな成果となりました。

今まで気づかなかった絵本の素敵さ、絵本の奥深さを知り、おはなしやおもちゃの世界のことも知る機会を子育て中の方に提供できたと思います。また、絵本の読み聞かせは季節感のあるおはなしと工作も準備し、参加者は親子で楽しさをあじわっていただけたと思います。今後の課題として本との出会いに特色をもたせて、さらに多くの子どもたちが本に出会えるような取り組みを進めていきたいと思います。

団　体　の　概　要

舞台鑑賞：舞台劇、人形劇、音楽、芸能など洗練されたプロの味をライブで楽しみます。すばらしい作品を親子で異年齢の仲間達と観ることで、生という繰り返しのきかないその一瞬一瞬に感動を積み重ねていきます。　**自主活動**：子どもまつり、デイキャンプ、高学年キャンプ、ハイキング、地域でクリスマス会、新年会など自分たちでやりたいことを計画して実現していきます。講演会･交流会など子どもたちがとびっきりの子ども時代を過ごせるよう、子どもも大人も成長できるように、ドキドキしたり、わくわくしたりできる体験の場をいっぱい創ることを大事に活動しています。

おはなしの会

実施団体名　佐久おはなしの会
連　絡　先　〒385-0034　長野県佐久市平賀2102-3
TEL:0267-63-3354（夜間）

活動の概要

子どもたちに絵本や、おはなしの楽しさを知ってもらったり、豊かな感情、思考力、想像力を育むことを願い、いろいろな視聴覚教材を取り入れ、メンバーそれぞれが、自分の持ち味を生かし、工夫したり手作りしたり、暖かみのある楽しい物を用意し実践した。



人形劇「てぶくろ」

活動の内容

・毎月・第3土曜日・15:00～16:00
・幼児～小学校低学年対象
・市立図書館視聴覚室
毎月の出し物・・・絵本2～3冊、紙芝居1冊、手遊び（月の季節や、参加している子どもの年齢に合うものを用意しておく）
その他に、パネルシアター、ブラックシアター、ペープサート、エプロンシアター、指人形、手品、クイズなど、年間計画にそって、演じる。
※ 7月・・・夏休みスペシャル
松戸おはなしキャラバンより人形を借りて「おしょうとこぞう」の人形劇を上演
※12月・・・クリスマススペシャル
松戸おはなしキャラバンより人形を借りて「てぶくろ」の人形劇を上演
◎絵本は、年齢に合うものは、勿論、大型絵本を使ったり、「はらぺこあおむし」では、あおむしの人形を持ち、読みと一緒に動かす工夫をした。

成果と課題

幼児、児童の言語能力の発達、表現力の養成を促すことができた。メンバーがそれぞれ持ち寄ることで幅広い分野での絵本を読むことができた。読み手だけでなく、見る側に語りかけたり、手遊びなど親子一緒にふれあう場を作ることで参加者全員が楽しむことができた。

月により、参加者の人数がまばらであるが、一人でも暖かく迎えよう、心から読んであげようという原点で、これからも続けていきたい。キャラクターに押されている現代であるが、昔から大事にされているお話しなどを伝えていきたい。また、メンバーの資質向上のために日々努力し、他の活動団体との連携もとっていきたいと考えている。



エプロンシアター「ねずみのよめいり」



ブラックシアター「マッチ売りの少女」

団　体　の　概　要

メンバー10名で、ボランティアとして行っている。年度初めに年間計画を立て、それを元に、4人1組で交替で実践している。子どもを大事に思い、笑顔を励みにして、内容の充実に努力している。

みんなで楽しむ動く手話絵本 アニメ てで はなそう

実施団体名　メディア・ワークス
連　絡　先　E-mail:mediaworks160@yahoo.co.jp　URL:http://www.mediaworks-net.com/

教材の概要

手の動きを動画で表すことが可能なデジタルコンテンツは手話学習に最適であり、音声、音楽、字幕、背景画をつけることで言葉のイメージを広げる。またこのようなアニメ感覚で学べる子ども用手話教材コンテンツはほとんどなく、制作は意義深いと考えた。以上の観点から、子どもが楽しみながら手話を学び、かつ子どもの健全な心を育むCD-R手話アニメ教材の開発を目指した。なお、コンテンツの題材は特に会話の内容に留意し、〈心を育む〉ことを重視し、かつ聴覚障害児にも充分対応できるものを選択した。

このようなCD-R手話アニメ教材は、手の温もりを伝える手話をひとつのコミュニケーションツールとして、聴覚障害者(児)と心の交流を行い、ユニバーサルで多様な価値観を育てる。同時に手話のボディ・ランゲージ性は子どもたちの表現力や想像性を養い、豊かな心を育成し、親子のコミュニケーションにも役立つ。

教材の活用法

この教材は子どもがひとりでも充分学べるが、講習会などを開くことで、教材が学校や地域センターの交流、また各家庭内で親子のコミュニケーションツールとして有効に機能しつつ、正確な手話をより容易にマスターできるよう指導する。

・図書館で:講習会を開催し使用法を指導して活用。
・ろう学校で:手話によるコミュニケーションを楽しむソフトとして活用。
・聴覚障害児向けの講習会やサークルで:手話やサインソングを楽しむ機会に活用。
・大学などのサークルを通じて:学生と子どもたちとの交流会の場で活用。
・地域の児童センターなど:子どもたちのレクリエーションの場で活用。
・地域での福祉や聴覚障害者との交流の場で:簡単な手話の習得で障害のある人との交流や、理解を促進させる。
・家庭における親子のコミュニケーションの手段として。



“おつきさま あそぼ”より



“うれしいの”より



“おはよう おやすみ”より



“ひびきのうた”より

教材の普及状況

・ インターネットを通じてのアクセス方法:メディア・ワークスホームページにて公開中。
・媒体の入手方法:メディア・ワークス宛にEmail にて申し込み。
・教材を利用した活用例:耳の聴こえない子どもの音楽ワークショップ〈響きの歌〉において教材として使用。手話による動画アニメが少ない中、わかりやすい内容とかわいらしいイラストが、子どもたちから好評を得ている。
・今後の課題:家庭のパソコンで使用する場合、古いパソコンもあり、CD-ROMの起動が困難なこともありうるので、今後、媒体についてはなにがよりよいかを検討していきたい。

団　体　の　概　要

1982年に設立された、音楽をはじめ、美術、映像、演劇からテクノロジーまでのメディアによる総合的な芸術創造と公演、ワークショップやレクチャーなどのアート教育活動を行う任意団体。また聴覚障害者・児童と共有可能なコンサートや音楽ワークショップ、音楽手話劇、映像展のイベントをボランティアで行う。

「小諸城下町・ひみつ探検にでかけよう！
～まちの魅力発見ラリーのプログラムと町案内」

実施団体名　特定非営利活動法人　小諸町並み研究会

連　絡　先　〒384-0014　長野県小諸市荒町1-5-7（佐藤デザインルーム内）
TEL:0267-22-2220　FAX:0267-22-2219
E-mail:EZY07022@nifty.com　URL:http://www.machinami.komoro.org/tanken/index.html

教材の概要

NPO法人小諸町並み研究会は、長野県小諸市で歴史をいかしたまちづくりに取り組む市民団体です。私たちは、まちの子どもたちにわが町の魅力を知ってもらうために平成13年から「城下町・忍者ラリー」を実施してきました。毎年400人前後の子ども、親子が参加し、高校生スタッフが活躍してくれ、楽しい世代交流の場となっています。毎年地区を移し、城下町の４地区を１巡したので、このプログラムのノウハウと、町の歴史やポイント情報をホームページやCD-ROMで提供していくことにしました。

（構成）

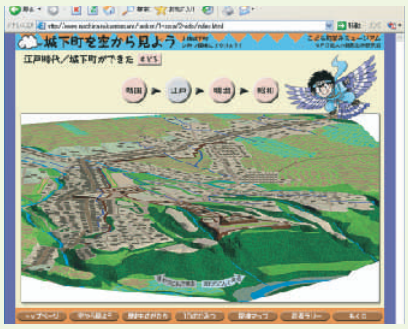
●城下町を空から見よう／3Dで町の変化を空から見ます。

●城下町・歴史ものがたり／小諸の城下町のまちの成り立ちを時代ごとの地図＋エピソードを図やイラストで説明しています。

●城下町・10のひみつをマスターしよう！／城下町の計画や歴史遺産の知恵をわかりやすく解説しています。

●さあ行くぞ！探検マップ＆ポイント紹介／まちを歩いてもらう時の手引きとしての地図と解説を、ダウンロードしてもらえるようにしてあります。

●忍者ラリーにチャレンジしよう！／私たちの作り上げてきた楽しい忍者ラリーのノウハウをわかりやすくまとめてあります。



空から見よう／江戸時代



歴史ものがたり／江戸／城下町がにぎわう



10のひみつ／7　町屋の町並みは、仲よくそろっている



忍者ラリーにチャレンジしよう／ここがおもしろい／わくわく修行の列

教材の活用法

・調べ学習での活用／まず、事前にこのホームページ等で「調べ学習」をしてもらい、歩き方の計画を子ども自身が立てて、小諸の町を歩いてもらう。

・子ども会などで「城下町ラリー」に取り組む／小諸内外の子どものグループで、クイズをダウンロードして、探検してもらう。

教材の普及状況

チラシでホームページについて宣伝したり、いろいろな団体にリンクをはってもらってアクセスしてもらっています。またCD-ROMを県内の学校やまちづくり関係に送付して、忍者ラリーのプログラムを紹介するとともに、小諸のまち探検にきてくれるように呼びかけています。ホームページは、調べ学習等で楽しく活用できると好評です。また意外に大人の方から、「城下町の歴史がとても楽しく学べる」とよろこばれています。親子で学べる教材になっています。

★まち探検をサポートします！

学校、親子サークルなどでの小諸のまち探検をサポートいたします。また「忍者クイズラリー」を体験したい方も、用具からスタッフまで提供することができます。どうぞお気軽にご連絡ください！

団　体　の　概　要

小諸の歴史的な町並みや詩情ある風景を保存活用し、まちの活性化や次世代の育成に取り組んで約10年になります。町の中の歴史的建物等の調査、まちづくり提案、案内マップづくりなどの自主事業を行っています。イベントとしては、多くの市民とともに町を歩き、再発見する活動を積み上げています。その一環として、親子に町の歴史資源やいいところなどを紹介し、町の歩きの楽しさを知ってもらうために「忍者ラリー」を実施しています。

日中韓子ども童話交流事業

事業の概要

日本・中国・韓国の子どもたちが一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知ってもらうとともに、お互いの文化を理解する機会を提供することにより、子どもの読書活動や体験活動の重要性について普及・啓発を図るため、「日中韓子ども童話交流事業実行委員会」を組織し、超党派の国会議員で構成される「子どもの未来を考える議員連盟」（会長：河村建夫元文部科学大臣）の参画を得て「日中韓子ども童話交流2005」を実施しました。

今回は、「山」をテーマに豊かな民話・伝説を有する富士山山ろくと東京を舞台に小学校4年生から6年生の子ども99名（日本50名、中国24名、韓国25名）が集い、一週間の日程で開催しました。

事業の内容

東京の国立オリンピック記念青少年総合センターに参加者が集合、3カ国混成の10グループに分かれ、そろいのTシャツを着て結団式、森喜朗実行委員会委員長（前内閣総理大臣）からご挨拶を頂きました。

結団式の後は、東京・上野の国立国会図書館国際子ども図書館で館内を見学。3階建ての館内には、世界中から児童書や関連資料が集められ、子どもたちは面白そうな絵本を手にとっていました。

静岡では国立中央青年の家（現国立中央青少年交流の家）で青年の家探検ラリーを楽しんだ後、カレーライスづくりを行い、地元静岡の富岳わんぱく太鼓を鑑賞し、太鼓の子どもたちと一緒にカレーライスを食べました。



実行委員会委員長・前内閣総理大臣の森喜朗衆議院議員を迎えて結団式

翌日には、動物写真家・中川雄三さんより「富士山ガイダンス」があり、自然保護の大切さを学んだ後、富士山体験ツアーに参加し、富士の自然を心に刻みました。グループごとに手作り絵本づくりに取り組み、シカ(日本)、パンダ(中国)、トラ(韓国)の3匹の各国を象徴する動物に気持ちを託して10編の絵本が出来上がりました。

グループ全員で協力して完成させた10編の絵本を舞台で発表、各班のファンタジーあふれる作品に感動の輪が広がりました。



みんなで協力して絵本作り



絵本の発表会

解散式では3カ国の子どもの代表が「3カ国がもっともっと仲良くなれるように歩んでいきたいと思います。」(抄)と宣言文を発表した後、別れを惜しみながら、再会を誓い各自帰途につきました。

世界に一つだけの絵本

3カ国の子どもたちが、日本5名、中国、韓国2～3名の10班に分かれてシカ(日本)・パンダ(中国)・トラ(韓国)という、それぞれの国の代表となる主人公に自分たちの気持ちを託し、班ごとでオリジナルのストーリーを協同して考え、1人ひとりが1場面ずつ担当し、世界に一つだけのオリジナル絵本を完成させました。

友情を深め合った1冊の本は、とても大切な思い出として心に刻み込まれたことでしょう。



日 本



中 国



韓 国

子どもゆめ基金への寄附団体

平成17年度に
子どもゆめ基金へご寄附をいただいた方々をご紹介します。

自 平成17年4月1日　至 平成18年3月31日　（あいうえお順・敬称略）

特定非営利活動法人あかね会	タフカ株式会社
株式会社アサヒ情報	財団法人丹後あじわいの郷
株式会社石野電気	株式会社テムス
巖建設株式会社	社団法人読書推進運動協議会
栄光電気株式会社	社団法人日本経済青年協議会
エムユーテクノ	日本シティビルサービス株式会社
岡田 亨	社団法人日本理科教育振興協会
学校法人金井学園	株式会社日本旅行
特定非営利活動法人カルチャー・リンクス	前田亘輝チャリティ募金 事務局 一木 広治
熊本子どもの本研究会	森永フードサービス株式会社
株式会社サンテックス	株式会社ヤマソーコーポレーション
財団法人社会経済生産性本部	有限会社ユウキ産業
全日本遊技事業協同組合連合会	渡辺工業株式会社

子どもゆめ基金へのご協力を

子どもゆめ基金は、国と民間が協力して青少年教育に関する団体が行う子どもの体験活動や読書活動などの振興を図り、子どもの健全育成に寄与するものです。

このため、個人、企業からもご協力をいただき、基金の拡大を図り、幅広くその活動を支援することにしています。

つきましては、下記の募金口座にて受付しております。広く皆様のご理解とご支援を何卒お願い申し上げます。

郵便振替口座

口座番号	00150-5-371382
口座名義	子どもゆめ基金

※振込に便利な郵便振替払込書を中に綴じておりますので、ご利用ください。

銀行口座

銀 行 名	三菱東京UFJ銀行　　渋谷支店
口座番号	普通預金3025103
口座名義	子どもゆめ基金

子どもゆめ基金に対するご寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

子どもゆめ基金ガイド2006　2006年9月発行

編　集　独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部
発　行　独立行政法人国立青少年教育振興機構
〒151-0052　東京都渋谷区代々木神園町3番1号
電　話　普及推進課03-6407-7682　助成課：0120-579081
ＵＲＬ　http://yumekikin.niye.go.jp/
E-mail　yume@niye.go.jp

「子どもゆめ基金」は独立行政法人国立青少年教育振興機構の登録商標です。



独立行政法人
国立青少年教育振興機構

PRINTED WITH SOY INK™
R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています